(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3583327号
(P3583327)
(45)発行日　平成16年11月4日(2004.11.4)　(24)登録日　平成16年8月6日(2004.8.6)

(51)Int.Cl.[7]　F I
A63F 7/02　A63F 7/02 304Z
A63F 7/02 334

請求項の数 7　(全 31 頁)

(21)出願番号　特願平11-321777
(22)出願日　平成11年11月11日(1999.11.11)
(65)公開番号　特開2001-137440(P2001-137440A)
(43)公開日　平成13年5月22日(2001.5.22)
審査請求日　平成13年11月6日(2001.11.6)

(73)特許権者　000144153
株式会社三共
群馬県桐生市境野町６丁目４６０番地
(74)代理人　100103090
弁理士　岩壁　冬樹
(72)発明者　鵜川　詔八
群馬県桐生市相生町１丁目１６４番地の５
(72)発明者　近藤　武宏
群馬県桐生市境野町６丁目４６０番地　株式会社三共内

審査官　吉村　尚

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技領域に設けられている入賞領域に遊技球が入賞すると賞球を払い出す遊技機であって、
遊技に供される遊技装置を制御するための遊技装置制御マイクロコンピュータが搭載された遊技装置制御基板と、
前記遊技装置制御基板とは別個に設けられ前記遊技装置制御基板で使用される各電圧を生成する電源基板と、
所定電位電源を監視して該所定電位電源の電圧低下を検出し該電圧が所定値となったときに検出信号を出力する第１の電源監視手段とを備え、
前記遊技装置制御基板は、前記遊技装置制御マイクロコンピュータとして入賞に応じて賞球制御コマンドを出力する遊技制御用マイクロコンピュータが搭載された遊技制御基板と、前記遊技装置制御マイクロコンピュータとして前記遊技制御用マイクロコンピュータから出力される賞球制御コマンドにもとづいて賞球払出処理を行う賞球制御用マイクロコンピュータが搭載された賞球制御基板とを含み、
前記遊技制御用マイクロコンピュータは、バックアップ電源により遊技機に対する電力供給が停止してもデータが保持されるＲＡＭを有し、電力供給開始時にＲＡＭの保持データにもとづいて遊技状態を復帰させる遊技状態復帰制御を行うことが可能であり、
前記賞球制御用マイクロコンピュータは、バックアップ電源により遊技機に対する電力供給が停止してもデータが保持されるＲＡＭを有し、電力供給開始時にＲＡＭの保持データ

にもとづいて電力供給停止時の賞球払出処理を再開することが可能であり、
前記電源基板に、前記第１の電源監視手段が監視する前記所定電位電源と同一の電位電源を監視して、該電位電源の電圧が、前記第１の電源監視手段が検出信号を出力するときの電圧よりも低い所定の値以下になったときに検出信号を出力する第２の電源監視手段が設けられ、
前記第２の電源監視手段は前記遊技制御基板の前記遊技制御用マイクロコンピュータと前記賞球制御基板の前記賞球制御用マイクロコンピュータとに接続され、単一の前記第２の電源監視手段から前記遊技制御用マイクロコンピュータと前記賞球制御用マイクロコンピュータとに検出信号が出力され、
前記遊技制御用マイクロコンピュータと前記賞球制御用マイクロコンピュータとは、
前記第１の電源監視手段からの検出信号の入力に応じて、遊技進行に応じて変動する変動データを電力供給が停止してもデータが保持される前記ＲＡＭで保持するための所定の処理であり、前記ＲＡＭに保持されている保持データについてチェックサムを演算して前記ＲＡＭに保持させる処理を行うとともに前記ＲＡＭへのアクセスを禁止するＲＡＭアクセス禁止処理を行う電源断時処理を実行し、
前記ＲＡＭがデータを保持している状態で電源断状態から電源が復帰したときに、前記ＲＡＭのチェックサムによって前記ＲＡＭの保持データの確認を行い保持データが正当であれば復帰時処理を行い、チェックサムが正当でなかったときには前記ＲＡＭのデータをクリアする初期化処理を実行し、
前記遊技制御用マイクロコンピュータと前記賞球制御用マイクロコンピュータとは、ともに、前記第２の電源監視手段からの検出信号の入力に応じてシステムリセットされる
ことを特徴とする遊技機。
【請求項２】
遊技制御用マイクロコンピュータは、定期的に発生する割込があったことにもとづいて賞球制御コマンドを出力し、
前記遊技制御用マイクロコンピュータは、電源断時処理において、割込禁止状態に設定した後にＲＡＭアクセス禁止処理を行い、
第２の電源監視手段は、所定電位電源の電圧が、第１の電源監視手段による検出信号の出力から該第２の電源監視手段による検出信号の出力までの期間に前記遊技制御用マイクロコンピュータが電源断時処理を完了するように設定された所定の値以下になったときに検出信号を出力する
請求項１記載の遊技機。
【請求項３】
遊技制御用マイクロコンピュータのＲＡＭで保持される変動データには少なくとも遊技状態を示す遊技状態データが含まれ、
復帰時処理には、遊技状態の復元を行うための遊技状態データ読み出し処理が含まれる
請求項１または請求項２記載の遊技機。
【請求項４】
電源断時処理には電源断を示すフラグをセットする処理が含まれ、
遊技制御用マイクロコンピュータおよび賞球制御用マイクロコンピュータは、電源復帰時に、チェックサムが所定値であったときには電源断を示すフラグの状態を確認し、そのフラグが電源断を示していれば復帰時処理を行う
請求項１から請求項３のうちのいずれかに記載の遊技機。
【請求項５】
賞球を払い出す払出装置を備え、
賞球制御用マイクロコンピュータにおいて遊技機の電源断時でも保持されるデータは、前記払出装置から払い出される賞球の残量に関わるデータである
請求項１から請求項４のうちのいずれかに記載の遊技機。
【請求項６】
遊技球を貸し出す払出装置を備え、

賞球制御用マイクロコンピュータは遊技球貸出制御も実行し、
賞球制御用マイクロコンピュータにおいて遊技機の電源断時でも保持されるデータは、前記払出装置から払い出される遊技球の残量に関わるデータである
請求項１から請求項５のうちのいずれかに記載の遊技機。
【請求項７】
賞球としての遊技球を払い出す払出装置は遊技球を貸し出すことも可能であり、
賞球制御用マイクロコンピュータは遊技球貸出制御も実行し、
賞球制御用マイクロコンピュータにおいて遊技機の電源断時でも保持されるデータには、前記払出装置から払い出される貸出遊技球の残量に関わるデータも含まれる
請求項５記載の遊技機。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、遊技者の操作に応じて遊技が行われるパチンコ遊技機やコイン遊技機等の遊技機に関し、特に、遊技盤における遊技領域において遊技者の操作に応じて遊技が行われる遊技機に関する。
【０００２】
【従来の技術】
遊技機として、遊技球などの遊技媒体を発射装置によって遊技領域に発射し、遊技領域に設けられている入賞口などの入賞領域に遊技媒体が入賞すると、所定個の賞球が遊技者に払い出されるものがある。さらに、表示状態が変化可能な可変表示部が設けられ、可変表示部の表示結果があらかじめ定められた特定の表示態様となった場合に所定の遊技価値を遊技者に与えるように構成されたものがある。
【０００３】
特別図柄を表示する可変表示部の表示結果があらかじめ定められた特定の表示態様の組合せとなることを、通常、「大当り」という。なお、遊技価値とは、遊技機の遊技領域に設けられた可変入賞球装置の状態が打球が入賞しやすい遊技者にとって有利な状態になることや、遊技者にとって有利な状態となるための権利を発生させたりすることである。
【０００４】
大当りが発生すると、例えば、大入賞口が所定回数開放して打球が入賞しやすい大当り遊技状態に移行する。そして、各開放期間において、所定個（例えば１０個）の大入賞口への入賞があると大入賞口は閉成する。そして、大入賞口の開放回数は、所定回数（例えば１６ラウンド）に固定されている。なお、各開放について開放時間（例えば２９．５秒）が決められ、入賞数が所定個に達しなくても開放時間が経過すると大入賞口は閉成する。また、大入賞口が閉成した時点で所定の条件（例えば、大入賞口内に設けられているＶゾーンへの入賞）が成立していない場合には、大当り遊技状態は終了する。
【０００５】
また、「大当り」の組合せ以外の表示態様の組合せのうち、複数の可変表示部の表示結果のうちの一部が未だに導出表示されていない段階において、既に表示結果が導出表示されている可変表示部の表示態様が特定の表示態様の組合せとなる表示条件を満たしている状態を「リーチ」という。そして、可変表示部に可変表示される識別情報の表示結果が「リーチ」となる条件を満たさない場合には「はずれ」となり、可変表示状態は終了する。遊技者は、大当りをいかにして発生させるかを楽しみつつ遊技を行う。
【０００６】
【発明が解決しようとする課題】
遊技機には、遊技制御手段を初めとする種々の遊技装置制御手段が搭載されている。一般に、各遊技装置制御手段はマイクロコンピュータで構成される。すなわち、ＲＯＭ等にプログラムが格納され、制御上一時的に発生するデータや制御進行に伴って変化するデータがＲＡＭに格納される。すると、遊技機に停電等による電源断状態が発生すると、ＲＡＭ内のデータは失われてしまう。よって、停電等からの復旧時には、最初の状態（例えば、

遊技店においてその日最初に遊技機に電源投入されたときの状態）に戻さざるを得ないので、遊技者に不利益がもたらされる可能性がある。例えば、大当たり遊技中において電源断が発生し遊技機が最初の状態に戻ってしまうのでは、遊技者は大当たりの発生にもとづく利益を享受することができなくなってしまう。

【０００７】

そのような事態を回避するには、停電等の不測の電源断が生じたときに、必要なデータを電源バックアップＲＡＭに保存し、電源が復旧したときに保存されていたデータを復元して遊技を再開させればよい。しかし、電源断時に必要なデータを保存する際に保存の仕方および復元の仕方が不適切であると、復元されたデータが電源断時のデータと一致しない可能性がある。そのような場合には、やはり遊技者に不測の不利益を与えかねない。

【０００８】

そこで、本発明は、停電等の不測の電源断が発生したときに必要なデータを保存して電源復旧時に電源断時の状態から遊技を再開できるように構成された場合に、必要なデータを確実に保存することができるとともに、保存されていたデータを電源復帰後に確実に活用することができる遊技機を提供することを目的とする。

【０００９】

【課題を解決するための手段】

本発明による遊技機は、所定の遊技を行った結果として遊技者に遊技結果価値を付与可能な遊技機であって、電源投入時に、電源断直前の内容を保持することが可能な記憶手段に保持されている保持データにもとづいて遊技状態を復帰させる遊技状態復帰制御を行うことが可能であり、遊技に供される遊技装置を制御するための遊技装置制御手段と、所定電位電源の電圧が低下し所定値となったことを検出するための電源監視手段とを備え、遊技装置制御手段は、電源監視手段の検出に応じて遊技進行に応じて変動する変動データを前記記憶手段で保持するための所定の電源断時処理を行うとともに、記憶手段がデータを保持している状態で電源断状態から電源が復帰したときに、記憶手段の保持データにもとづいて、初期化処理を行うか遊技状態を電源断前の状態に復帰させる復帰時処理を行うかを決定することを特徴とする。なお、遊技結果価値とは、遊技球の払い出しや、画像式遊技機の場合の得点の加点を示す概念である。

【００１０】

記憶手段で保持される変動データには少なくとも遊技状態を示す遊技状態データが含まれ、復帰時処理には、遊技状態の復元を行うための遊技状態データ読み出し処理が含まれるように構成されていてもよい。

【００１１】

初期化処理を行うか復帰時処理を行うかを決定するために用いられる保持データは、例えばチェックサムである。

【００１２】

遊技装置制御手段は、電源断時にチェックサムを演算して記憶手段に保持させるとともに、電源復帰時に、チェックサムによって記憶手段の保持データの確認を行い保持データが正当であれば復帰時処理を行うように構成されていてもよい。

【００１３】

ここで、遊技装置制御手段は、保持データが正当でなかった場合には初期化処理を行うように構成されていてもよい。

【００１４】

電源断時処理には電源断を示すフラグをセットする処理が含まれ、遊技装置制御手段は、電源復帰時に、チェックサムが所定値であった場合には電源断を示すフラグの状態を確認し、そのフラグが電源断を示していれば復帰時処理を行うように構成されていてもよい。

【００１５】

電源断時処理には、記憶手段へのアクセスを防止する処理が含まれていてもよい。

【００１６】

遊技機には電源監視手段が電圧低下を検出した所定期間後に電源電圧低下を検出する第２

の電源監視手段が設けられ、遊技制御マイクロコンピュータが、第２の電源監視手段からの検出出力の入力に応じてシステムリセットされるように構成されていてもよい。

【００１７】

少なくとも所定の景品遊技媒体を払い出す払出装置を備え、遊技装置制御手段は景品払出制御を含む払出制御を行う払出制御手段であり、遊技機の電源断時でも保持されるデータは、払出装置から払い出される景品遊技媒体の残量に関わるデータであるように構成されていてもよい。

【００１８】

少なくとも所定の遊技媒体を貸し出す払出装置を備え、遊技装置制御手段は遊技媒体貸出制御を含む払出制御を行う払出制御手段であり、遊技機の電源断時でも保持されるデータは、払出装置から払い出される遊技媒体の残量に関わるデータであるように構成されていてもよい。

【００１９】

また、所定の景品遊技媒体を払い出す払出装置が遊技媒体を貸し出すことも可能であり、払出制御手段は遊技媒体貸出制御も実行し、遊技機の電源断時でも保持されるデータには、払出装置から払い出される貸出遊技媒体の残量に関わるデータも含まれるように構成されていてもよい。

【００２０】

すなわち、払出装置を、遊技媒体の景品払い出しと貸し出しとをともに行うものと捉えてもよいし、景品遊技媒体を払い出す払出装置と所定の遊技媒体を貸し出す払出装置とに分かれているものとして捉えてもよい。なお、分けて捉えた場合に、それらは同一筐体（ケース）内に設けられていてもよいし、別筐体として設置されていてもよい。

【００２１】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施形態を図面を参照して説明する。

まず、遊技機の一例であるパチンコ遊技機の全体の構成について説明する。図１はパチンコ遊技機１を正面からみた正面図、図２はパチンコ遊技機１の内部構造を示す全体背面図、図３はパチンコ遊技機１の遊技盤を背面からみた背面図である。なお、ここでは、遊技機の一例としてパチンコ遊技機を示すが、本発明はパチンコ遊技機に限られず、例えばコイン遊技機等であってもよい。また、画像式の遊技機やスロット機に適用することもできる。

【００２２】

図１に示すように、パチンコ遊技機１は、額縁状に形成されたガラス扉枠２を有する。ガラス扉枠２の下部表面には打球供給皿３がある。打球供給皿３の下部には、打球供給皿３からあふれた景品玉を貯留する余剰玉受皿４と打球を発射する打球操作ハンドル（操作ノブ）５が設けられている。ガラス扉枠２の後方には、遊技盤６が着脱可能に取り付けられている。また、遊技盤６の前面には遊技領域７が設けられている。

【００２３】

遊技領域７の中央付近には、複数種類の図柄を可変表示するための可変表示部９と７セグメントＬＥＤによる可変表示器１０とを含む可変表示装置８が設けられている。この実施の形態では、可変表示部９には、「左」、「中」、「右」の３つの図柄表示エリアがある。可変表示装置８の側部には、打球を導く通過ゲート１１が設けられている。通過ゲート１１を通過した打球は、玉出口１３を経て始動入賞口１４の方に導かれる。通過ゲート１１と玉出口１３との間の通路には、通過ゲート１１を通過した打球を検出するゲートスイッチ１２がある。また、始動入賞口１４に入った入賞球は、遊技盤６の背面に導かれ、始動口スイッチ１７によって検出される。また、始動入賞口１４の下部には開閉動作を行う可変入賞球装置１５が設けられている。可変入賞球装置１５は、ソレノイド１６によって開状態とされる。

【００２４】

可変入賞球装置１５の下部には、特定遊技状態（大当り状態）においてソレノイド２１に

よって開状態とされる開閉板２０が設けられている。この実施の形態では、開閉板２０が大入賞口を開閉する手段となる。開閉板２０から遊技盤６の背面に導かれた入賞球のうち一方（Ｖゾーン）に入った入賞球はＶカウントスイッチ２２で検出される。また、開閉板２０からの入賞球はカウントスイッチ２３で検出される。可変表示装置８の下部には、始動入賞口１４に入った入賞球数を表示する４個の表示部を有する始動入賞記憶表示器１８が設けられている。この例では、４個を上限として、始動入賞がある毎に、始動入賞記憶表示器１８は点灯している表示部を１つずつ増やす。そして、可変表示部９の可変表示が開始される毎に、点灯している表示部を１つ減らす。

【００２５】

遊技盤６には、複数の入賞口１９，２４が設けられ、遊技球の入賞口１９，２４への入賞は入賞口スイッチ１９ａ，２４ａによって検出される。遊技領域７の左右周辺には、遊技中に点滅表示される装飾ランプ２５が設けられ、下部には、入賞しなかった打球を吸収するアウト口２６がある。また、遊技領域７の外側の左右上部には、効果音を発する２つのスピーカ２７が設けられている。遊技領域７の外周には、遊技効果ＬＥＤ２８ａおよび遊技効果ランプ２８ｂ，２８ｃが設けられている。

【００２６】

そして、この例では、一方のスピーカ２７の近傍に、景品玉払出時に点灯する賞球ランプ５１が設けられ、他方のスピーカ２７の近傍に、補給玉が切れたときに点灯する球切れランプ５２が設けられている。さらに、図１には、パチンコ遊技台１に隣接して設置され、プリペイドカードが挿入されることによって玉貸しを可能にするカードユニット５０も示されている。

【００２７】

カードユニット５０には、使用可能状態であるか否かを示す使用可表示ランプ１５１、カード内に記録された残額情報に端数（１００円未満の数）が存在する場合にその端数を打球供給皿３の近傍に設けられる度数表示ＬＥＤに表示させるための端数表示スイッチ１５２、カードユニット５０がいずれの側のパチンコ遊技機１に対応しているのかを示す連結台方向表示器１５３、カードユニット５０内にカードが投入されていることを示すカード投入表示ランプ１５４、記録媒体としてのカードが挿入されるカード挿入口１５５、およびカード挿入口１５５の裏面に設けられているカードリーダライタの機構を点検する場合にカードユニット５０を解放するためのカードユニット錠１５６が設けられている。

【００２８】

打球発射装置から発射された打球は、打球レールを通って遊技領域７に入り、その後、遊技領域７を下りてくる。打球が通過ゲート１１を通ってゲートスイッチ１２で検出されると、可変表示器１０の表示数字が連続的に変化する状態になる。また、打球が始動入賞口１４に入り始動口スイッチ１７で検出されると、図柄の変動を開始できる状態であれば、可変表示部９内の図柄が回転を始める。図柄の変動を開始できる状態でなければ、始動入賞記憶を１増やす。

【００２９】

可変表示部９内の画像の回転は、一定時間が経過したときに停止する。停止時の画像の組み合わせが大当り図柄の組み合わせであると、大当り遊技状態に移行する。すなわち、開閉板２０が、一定時間経過するまで、または、所定個数（例えば１０個）の打球が入賞するまで開放する。そして、開閉板２０の開放中に打球が特定入賞領域に入賞しＶカウントスイッチ２２で検出されると、継続権が発生し開閉板２０の開放が再度行われる。継続権の発生は、所定回数（例えば１５ラウンド）許容される。

【００３０】

停止時の可変表示部９内の画像の組み合わせが確率変動を伴う大当り図柄の組み合わせである場合には、次に大当りとなる確率が高くなる。すなわち、高確率状態という遊技者にとってさらに有利な状態となる。また、可変表示器１０における停止図柄が所定の図柄（当り図柄）である場合に、可変入賞球装置１５が所定時間だけ開状態になる。さらに、高確率状態では、可変表示器１０における停止図柄が当り図柄になる確率が高められるとと

もに、可変入賞球装置１５の開放時間と開放回数が高められる。
【００３１】
次に、パチンコ遊技機１の裏面の構造について図２を参照して説明する。
可変表示装置８の背面では、図２に示すように、機構板３６の上部に景品玉タンク３８が設けられ、パチンコ遊技機１が遊技機設置島に設置された状態でその上方から景品玉が景品玉タンク３８に供給される。景品玉タンク３８内の景品玉は、誘導樋３９を通って玉払出装置に至る。
【００３２】
機構板３６には、中継基板３０を介して可変表示部９を制御する可変表示制御ユニット２９、基板ケース３２に覆われ遊技制御用マイクロコンピュータ等が搭載された遊技制御基板（主基板）３１、可変表示制御ユニット２９と遊技制御基板３１との間の信号を中継するための中継基板３３、および景品玉の払出制御を行う賞球制御用マイクロコンピュータ等が搭載された賞球制御基板３７が設置されている。さらに、機構板３６の下部には、モータの回転力を利用して打球を遊技領域７に発射する打球発射装置３４と、遊技効果ランプ・ＬＥＤ２８ａ，２８ｂ，２８ｃ、賞球ランプ５１および球切れランプ５２に信号を送るためのランプ制御基板３５が設置されている。
【００３３】
また、図３はパチンコ遊技機１の遊技盤を背面からみた背面図である。誘導樋３９を通った玉は、図３に示されるように、球切れ検出器１８７ａ，１８７ｂを通過して玉供給樋１８６ａ，１８６ｂを経て玉払出装置９７に至る。玉払出装置９７から払い出された景品玉は、連絡口４５を通ってパチンコ遊技機１の前面に設けられている打球供給皿３に供給される。連絡口４５の側方には、パチンコ遊技機１の前面に設けられている余剰玉受皿４に連通する余剰玉通路４６が形成されている。入賞にもとづく景品玉が多数払い出されて打球供給皿３が満杯になり、ついには景品玉が連絡口４５に到達した後さらに景品玉が払い出されると景品玉は、余剰玉通路４６を経て余剰玉受皿４に導かれる。さらに景品玉が払い出されると、感知レバー４７が満タンスイッチ４８を押圧して満タンスイッチ４８がオンする。その状態では、玉払出装置９７内のステッピングモータの回転が停止して玉払出装置９７の動作が停止するとともに、必要に応じて打球発射装置３４の駆動も停止する。
なお、この実施の形態では、電気的駆動源の駆動によって遊技球を払い出す玉払出装置として、ステッピングモータの回転によって遊技球が払い出される玉払出装置９７を例示するが、その他の駆動源によって遊技球を送り出す構造の玉払出装置を用いてもよいし、電気的駆動源の駆動によってストッパを外し遊技球の自重によって払い出しがなされる構造の玉払出装置を用いてもよい。
【００３４】
賞球払出制御を行うために、入賞口スイッチ１９ａ，２４ａ、始動口スイッチ１７およびＶカウントスイッチ２２からの信号が、主基板３１に送られる。主基板３１のＣＰＵ５６は、始動口スイッチ１７がオンすると６個の賞球払出に対応した入賞が発生したことを知る。また、カウントスイッチ２３がオンすると１５個の賞球払出に対応した入賞が発生したことを知る。そして、入賞口スイッチがオンすると１０個の賞球払出に対応した入賞が発生したことを知る。なお、この実施の形態では、例えば、入賞口２４に入賞した遊技球は、入賞口２４からの入賞球流路に設けられている入賞口スイッチ２４ａで検出され、入賞口１９に入賞した遊技球は、入賞口１９からの入賞球流路に設けられている入賞口スイッチ１９ａで検出される。
【００３５】
図４は、主基板３１における回路構成の一例を示すブロック図である。なお、図４には、賞球制御基板３７、ランプ制御基板３５、音制御基板７０、発射制御基板９１および表示制御基板８０も示されている。主基板３１には、プログラムに従ってパチンコ遊技機１を制御する基本回路５３と、ゲートスイッチ１２、始動口スイッチ１７、Ｖカウントスイッチ２２、カウントスイッチ２３および入賞口スイッチ１９ａ，２４ａからの信号を基本回路５３に与えるスイッチ回路５８と、可変入賞球装置１５を開閉するソレノイド１６およ

び開閉板２０を開閉するソレノイド２１を基本回路５３からの指令に従って駆動するソレノイド回路５９と、始動記憶表示器１８の点灯および滅灯を行うとともに７セグメントＬＥＤによる可変表示器１０と装飾ランプ２５とを駆動するランプ・ＬＥＤ回路６０とが搭載されている。

【００３６】

また、基本回路５３から与えられるデータに従って、大当りの発生を示す大当り情報、可変表示部９の画像表示開始に利用された始動入賞球の個数を示す有効始動情報、確率変動が生じたことを示す確変情報等をホール管理コンピュータ等のホストコンピュータに対して出力する情報出力回路６４を含む。

【００３７】

基本回路５３は、ゲーム制御用のプログラム等を記憶するＲＯＭ５４、ワークメモリとして使用される揮発性記憶手段の一例であるＲＡＭ５５、制御用のプログラムに従って制御動作を行うＣＰＵ５６およびＩ／Ｏポート部５７を含む。この実施の形態では、ＲＯＭ５４，ＲＡＭ５５はＣＰＵ５６に内蔵されている。すなわち、ＣＰＵ５６は、１チップマイクロコンピュータである。なお、１チップマイクロコンピュータは、少なくともＲＡＭ５５が内蔵されていればよく、ＲＯＭ５４およびＩ／Ｏポート部５７は外付けであっても内蔵されていてもよい。また、Ｉ／Ｏポート部５７は、マイクロコンピュータにおける情報入出力可能な端子である。

【００３８】

さらに、主基板３１には、電源投入時に基本回路５３をリセットするための初期リセット回路６５と、基本回路５３から与えられるアドレス信号をデコードしてＩ／Ｏポート部５７のうちのいずれかのＩ／Ｏポートを選択するための信号を出力するアドレスデコード回路６７とが設けられている。

なお、玉払出装置９７から主基板３１に入力されるスイッチ情報もあるが、図４ではそれらは省略されている。

【００３９】

遊技球を打撃して発射する打球発射装置は発射制御基板９１上の回路によって制御される駆動モータ９４で駆動される。そして、駆動モータ９４の駆動力は、操作ノブ５の操作量に従って調整される。すなわち、発射制御基板９１上の回路によって、操作ノブ５の操作量に応じた速度で打球が発射されるように制御される。

【００４０】

図５は、賞球制御基板３７および玉払出装置９７の構成要素などの賞球に関連する構成要素を示すブロック図である。図５に示すように、満タンスイッチ４８からの検出信号は、中継基板７１を介して主基板３１のＩ／Ｏポート５７に入力される。満タンスイッチ４８は、余剰玉受皿４の満タンを検出するスイッチである。

【００４１】

球切れ検出スイッチ１６７および球切れスイッチ１８７（１８７ａ，１８７ｂ）からの検出信号は、中継基板７２および中継基板７１を介して主基板３１のＩ／Ｏポート５７に入力される。球切れ検出スイッチ１６７は景品玉タンク３８内の補給玉の不足を検出するスイッチであり、球切れスイッチ１８７は、景品玉通路内の景品玉の有無を検出するスイッチである。

【００４２】

主基板３１のＣＰＵ５６は、球切れ検出スイッチ１６７または球切れスイッチ１８７からの検出信号が球切れ状態を示しているか、または、満タンスイッチ４８からの検出信号が満タン状態を示していると、玉貸し禁止を指示する賞球制御コマンドを送出する。玉貸し禁止を指示する賞球制御コマンドを受信すると、賞球制御基板３７の賞球制御用ＣＰＵ３７１は、玉貸し処理を停止する。

【００４３】

さらに、賞球カウントスイッチ３０１Ａおよび玉貸しカウントスイッチ３０１Ｂからの検出信号も、中継基板７２および中継基板７１を介して主基板３１のＩ／Ｏポート５７に入

力される。また、賞球カウントスイッチ３０１Ａおよび玉貸しカウントスイッチ３０１Ｂは、玉払出装置９７の賞球機構部分に設けられ、実際に払い出された賞球を検出する。

【００４４】

入賞があると、賞球制御基板３７には、主基板３１の出力ポート（ポートＧ，Ｈ）５７７，５７８から賞球個数を示す賞球制御コマンドが入力される。出力ポート５７７は８ビットのデータを出力し、出力ポート５７８は１ビットのストローブ信号（ＩＮＴ信号）を出力する。賞球個数を示す賞球制御コマンドは、入力バッファ回路３７３を介してＩ／Ｏポート３７２ａに入力される。賞球制御用ＣＰＵ３７１は、Ｉ／Ｏポート３７２ａを介して賞球制御コマンドを入力し、賞球制御コマンドに応じて玉払出装置９７を駆動して賞球払出を行う。なお、この実施の形態では、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、１チップマイクロコンピュータであり、少なくともＲＡＭが内蔵されている。

【００４５】

賞球制御用ＣＰＵ３７１は、出力ポート３７２ｇを介して、貸し玉数を示す玉貸し個数信号をターミナル基板１６０に出力し、ブザー駆動信号をブザー基板７５に出力する。ブザー基板７５にはブザーが搭載されている。さらに、出力ポート３７２ｅを介して、エラー表示用ＬＥＤ３７４にエラー信号を出力する。

【００４６】

さらに、賞球制御基板３７の入力ポート３７２ｂには、中継基板７２を介して、賞球カウントスイッチ３０１Ａの検出信号の検出信号が入力される。賞球制御基板３７からの払出モータ２８９への駆動信号は、出力ポート３７２ｃおよび中継基板７２を介して玉払出装置９７の賞球機構部分における払出モータ２８９に伝えられる。

【００４７】

カードユニット５０には、カードユニット制御用マイクロコンピュータが搭載されている。また、カードユニット５０には、端数表示スイッチ１５２、連結台方向表示器１５３、カード投入表示ランプ１５４およびカード挿入口１５５が設けられている（図１参照）。残高表示基板７４には、打球供給皿３の近傍に設けられている度数表示ＬＥＤ、玉貸しスイッチおよび返却スイッチが接続される。

【００４８】

残高表示基板７４からカードユニット５０には、遊技者の操作に応じて、玉貸しスイッチ信号および返却スイッチ信号が賞球制御基板３７を介して与えられる。また、カードユニット５０から残高表示基板７４には、プリペイドカードの残高を示すカード残高表示信号および玉貸し可表示信号が賞球制御基板３７を介して与えられる。カードユニット５０と賞球制御基板３７の間では、ユニット操作信号（ＢＲＤＹ信号）、玉貸し要求信号（ＢＲＱ信号）、玉貸し完了信号（ＥＸＳ信号）およびパチンコ機動作信号（ＰＲＤＹ信号）がＩ／Ｏポート３７２ｆを介してやりとりされる。

【００４９】

パチンコ遊技機１の電源が投入されると、賞球制御基板３７の賞球制御用ＣＰＵ３７１は、カードユニット５０にＰＲＤＹ信号を出力する。カードユニット５０においてカードが受け付けられ、玉貸しスイッチが操作され玉貸しスイッチ信号が入力されると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、賞球制御基板３７にＢＲＤＹ信号を出力する。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、賞球制御基板３７にＢＲＱ信号を出力する。そして、賞球制御基板３７の賞球制御用ＣＰＵ３７１は、払出モータ２８９を駆動し、所定個の貸し玉を遊技者に払い出す。そして、払出が完了したら、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、カードユニット５０にＥＸＳ信号を出力する。

【００５０】

以上のように、カードユニット５０からの信号は全て賞球制御基板３７に入力される構成になっている。従って、玉貸し制御に関して、カードユニット５０から主基板３１に信号が入力されることはなく、主基板３１の基本回路５３にカードユニット５０の側から不正に信号が入力される余地はない。なお、主基板３１および賞球制御基板３７には、ソレノ

イドおよびモータやランプを駆動するためのドライバ回路が搭載されているが、図５では、それらの回路は省略されている。

【００５１】

なお、この実施の形態ではカードユニット５０が設けられている場合を例にするが、コイン投入に応じてその金額に応じた遊技球を貸し出す場合にも本発明を適用できる。

【００５２】

図６は、電源監視および電源バックアップのためのＣＰＵ５６周りの一構成例を示すブロック図である。図６に示すように、電源基板に搭載されている第１の電源監視回路（第１の電源監視手段）からの電圧低下信号が、ＣＰＵ５６の割込端子（ＩＲＱ端子）に入力されている。第１の電源監視回路は、遊技機が使用する各種直流電源のうちのいずれかの電源の電圧を監視して電源電圧低下を検出する回路である。従って、ＣＰＵ５６は、割込（ＩＲＱ）によって電源断の状況を確認することができる。

【００５３】

主基板３１には、第２の電源監視回路９０３が搭載されている。この例では、第２の電源監視回路９０３において、電源監視用ＩＣ９０４が、第１の電源監視回路が監視する電源電圧と等しい電源電圧である＋３０Ｖ電源電圧を監視して電圧値が所定値以下になるとローレベルの電圧低下信号を発生する。そして、例えば、電源基板に搭載される第１の電源監視回路の検出電圧（電圧低下信号を出力することになる電圧）を＋１６Ｖとし、第２の電源監視回路９０３の検出電圧を＋８Ｖとする。そのように構成した場合には、同一の電圧を監視するので、第１の電圧監視回路が電圧低下信号を出力するタイミングと第２の電圧監視回路が電圧低下信号を出力するタイミングの差を所望の所定期間に確実に設定することができる。所望の所定期間とは、第１の電源監視回路からの電圧低下信号に応じて電源断時処理を開始してから電源断時処理が確実に完了するまでの期間である。

【００５４】

第２の電源監視回路９０３からの電圧低下信号は、初期リセット回路６５からの初期リセット信号と論理和をとられた後に、ＣＰＵ５６のリセット端子に入力される。従って、ＣＰＵ５６は、初期リセット回路６５からの初期リセット信号がローレベルを呈しているとき、または、第２の電源監視回路９０３からの電圧低下信号がローレベルを呈しているときに、システムリセット状態（非動作状態）になる。

【００５５】

なお、初期リセット回路６５のリセットＩＣ６５１は、遊技機に電源が投入され＋５Ｖ電源の電圧が上昇していくときに、＋５Ｖ電源電圧が所定値以上になると、出力信号をハイレベルにする。すなわち、初期リセット信号をオフ状態にする。

【００５６】

ＣＰＵ５６等の駆動電源である＋５Ｖ電源から電力が供給されていない間、ＲＡＭの少なくとも一部は、電源基板から供給されるバックアップ電源によってバックアップされ、遊技機に対する電源が断しても内容は保存される。そして、＋５Ｖ電源が復旧すると、初期リセット回路６５からリセット信号が発せられるので、ＣＰＵ５６は、通常の動作状態に復帰する。そのとき、必要なデータがバックアップされているので、停電等からの復旧時には停電発生時の遊技状態に復帰することができる。

【００５７】

図７は、電源基板９１０の一構成例を示すブロック図である。電源基板９１０は、主基板３１、表示制御基板８０、音制御基板７０、ランプ制御基板３５および賞球制御基板３７等の遊技装置制御基板と独立して設置され、遊技機内の各遊技装置制御基板および機構部品が使用する電圧を生成する。この例では、ＡＣ２４Ｖ、ＤＣ＋３０Ｖ、ＤＣ＋２１Ｖ、ＤＣ＋１２ＶおよびＤＣ＋５Ｖを生成する。また、バックアップ電源となるコンデンサ９１６は、ＤＣ＋５Ｖすなわち各基板上のＩＣ等を駆動する電源のラインから充電される。

【００５８】

トランス９１１は、交流電源からの交流電圧を２４Ｖに変換する。ＡＣ２４Ｖ電圧は、コネクタ９１５に出力される。また、整流回路９１２は、ＡＣ２４Ｖから＋３０Ｖの直流電

圧を生成し、ＤＣ－ＤＣコンバータ９１３およびコネクタ９１５に出力する。ＤＣ－ＤＣコンバータ９１３は、＋２１Ｖ、＋１２Ｖおよび＋５Ｖを生成してコネクタ９１５に出力する。コネクタ９１５は例えば中継基板に接続され、中継基板から各遊技装置制御基板および機構部品に必要な電圧の電力が供給される。

【００５９】

ＤＣ－ＤＣコンバータ９１３からの＋５Ｖラインは分岐してバックアップ＋５Ｖラインを形成する。バックアップ＋５Ｖラインとグラウンドレベルとの間には大容量のコンデンサ９１６が接続されている。コンデンサ９１６は、遊技機に対する電力供給が遮断されたときの遊技装置制御基板のバックアップＲＡＭ（電源バックアップされているＲＡＭすなわち記憶内容保持状態となりうる記憶手段）に対して記憶状態を保持できるように電力を供給するバックアップ電源となる。また、＋５Ｖラインとバックアップ＋５Ｖラインとの間に、逆流防止用のダイオード９１７が挿入される。

【００６０】

なお、バックアップ電源として、＋５Ｖ電源から充電可能な電池を用いてもよい。電池を用いる場合には、＋５Ｖ電源から電力供給されない状態が所定時間継続すると容量がなくなるような充電池が用いられる。

【００６１】

また、電源基板９１０には、上述した第１の電源回路を構成する電源監視用ＩＣ９０２が搭載されている。電源監視用ＩＣ９０２は、＋３０Ｖ電源電圧を導入し、＋３０Ｖ電源電圧を監視することによって電源断の発生を検出する。具体的には、＋３０Ｖ電源電圧が所定値（この例では＋１６Ｖ）以下になったら、電源断が生ずるとして電圧低下信号を出力する。なお、＋３０Ｖ電源電圧は、交流から直流に変換された直後の電圧である。電源監視用ＩＣ９０２からの電圧低下信号は、主基板３１や賞球制御基板３７等に供給される。

【００６２】

電源監視用ＩＣ９０２が電源断を検知するための所定値は、通常時の電圧より低いが、各遊技装置制御基板上のＣＰＵが暫くの間動作しうる程度の電圧である。また、電源監視用ＩＣ９０２が、ＣＰＵを駆動するための電圧（この例では＋５Ｖ）よりも高く、かつ、交流から直流に変換された直後の電圧を監視するように構成されているので、ＣＰＵが必要とする電圧に対して監視範囲を広げることができる。従って、より精密な監視を行うことができる。さらに、監視電圧として＋３０Ｖを用いる場合には、遊技機の各種スイッチに供給される電圧が＋１２Ｖであることから、電源瞬断時のスイッチオン誤検出の防止も期待できる。すなわち、＋３０Ｖ電源の電圧を監視すると、＋３０Ｖ作成の以降に作られる＋１２Ｖが落ち始める以前の段階でそれの低下を検出できる。よって、＋１２Ｖ電源の電圧が低下するとスイッチ出力がオン状態を呈するようになるが、＋１２Ｖより早く低下する＋３０Ｖ電源電圧を監視して電源断を認識すれば、スイッチ出力がオン状態を呈する前に電源復旧待ちの状態に入ってスイッチ出力を検出しない状態となることができる。

【００６３】

また、電源監視用ＩＣ９０２は、遊技装置制御基板とは別個の電源基板９１０に搭載されているので、第１の電源監視回路から複数の遊技装置制御基板に電圧低下信号を供給することができる。電圧低下信号を必要とする遊技装置制御基板が幾つあっても第１の電源監視手段は１つ設けられていればよいので、各遊技装置制御基板における各遊技装置制御手段が後述する電源復帰制御を行っても、遊技機のコストはさほど上昇しない。

【００６４】

次に遊技機の動作について説明する。

図８は、主基板３１におけるＣＰＵ５６が実行するメイン処理を示すフローチャートである。遊技機に対する電源が投入されると、メイン処理において、ＣＰＵ５６は、まず、ＲＡＭ５５におけるバックアップパリティデータ領域に設定されているデータが「００」であるか否か確認する（ステップＳ１）。バックアップパリティデータ領域については後で詳しく説明する。バックアップパリティデータ領域に設定されているデータが「００」でなければ、パリティ診断（チェックサム確認）を行う（ステップＳ２）。そして、チェッ

クサム確認の結果が正当であれば（ステップＳ３）、ＣＰＵ５６は、後述する停電復旧処理を実行する（ステップＳ４）。また、チェックサム確認の結果が正当でなければ、通常の初期化処理を実行する（ステップＳ６）。

【００６５】

また、バックアップパリティデータ領域に設定されているデータが「００」であった場合には、ＣＰＵ５６は、電源断フラグを確認し（ステップＳ５）、電源断フラグがセットされていれば（ステップＳ５）、ＲＡＭ５５に記憶されている遊技状態データにもとづいて停電復旧処理を実行する（ステップＳ４）。電源断フラグがセットされていなければ、通常の初期化処理を実行する（ステップＳ６）。

【００６６】

その後、メイン処理では、タイマ割込フラグの監視（ステップＳ８）の確認を行うループ処理に移行する。なお、ループ内では、表示用乱数更新処理（ステップＳ７）も実行される。

【００６７】

通常の初期化処理では、図９に示すように、レジスタおよびＲＡＭのクリア処理（ステップＳ６ａ）と、必要な初期値設定処理（ステップＳ６ｂ）が行われた後に、２ｍｓ毎に定期的にタイマ割込がかかるようにＣＰＵ５６に設けられているタイマレジスタの初期設定（タイムアウトが２ｍｓであることと繰り返しタイマが動作する設定）が行われる（ステップＳ６ｃ）。すなわち、ステップＳ６ｃで、タイマ割込を能動化する処理と、タイマ割込インタバルを設定する処理とが実行される。

【００６８】

従って、この実施の形態では、ＣＰＵ５６の内部タイマが繰り返しタイマ割込を発生するように設定される。この実施の形態では、繰り返し周期は２ｍｓに設定される。そして、図１０に示すように、タイマ割込が発生すると、ＣＰＵ５６は、タイマ割込フラグをセットする（ステップＳ１１）。

【００６９】

ＣＰＵ５６は、ステップＳ８において、タイマ割込フラグがセットされたことを検出すると、タイマ割込フラグをリセットするとともに（ステップＳ９）、遊技制御処理を実行する（ステップＳ１０）。以上の制御によって、この実施の形態では、遊技制御処理は２ｍｓ毎に起動されることになる。なお、この実施の形態では、タイマ割込処理ではフラグセットのみがなされ、遊技制御処理はメイン処理において実行されるが、タイマ割込処理で遊技制御処理を実行してもよい。

【００７０】

図１１は、遊技制御処理を示すフローチャートである。遊技制御処理において、ＣＰＵ５６は、まず、表示制御基板８０に送出される表示制御コマンドをＲＡＭ５５の所定の領域に設定する処理を行った後に（表示制御データ設定処理：ステップＳ２１）、表示制御コマンドを出力する処理を行う（表示制御データ出力処理：ステップＳ２２）。

【００７１】

次いで、各種出力データの格納領域の内容を各出力ポートに出力する処理を行う（データ出力処理：ステップＳ２３）。また、ホール管理用コンピュータに出力される大当り情報、始動情報、確率変動情報などの出力データを格納領域に設定する出力データ設定処理を行う（ステップＳ２４）。さらに、パチンコ遊技機１の内部に備えられている自己診断機能によって種々の異常診断処理が行われ、その結果に応じて必要ならば警報が発せられる（エラー処理：ステップＳ２５）。

【００７２】

次に、遊技制御に用いられる大当り判定用の乱数等の各判定用乱数を示す各カウンタを更新する処理を行う（ステップＳ２６）。

【００７３】

さらに、ＣＰＵ５６は、特別図柄プロセス処理を行う（ステップＳ２７）。特別図柄プロセス制御では、遊技状態に応じてパチンコ遊技機１を所定の順序で制御するための特別図

柄プロセスフラグに従って該当する処理が選び出されて実行される。そして、特別図柄プロセスフラグの値は、遊技状態に応じて各処理中に更新される。また、普通図柄プロセス処理を行う（ステップＳ２８）。普通図柄プロセス処理では、７セグメントＬＥＤによる可変表示器１０を所定の順序で制御するための普通図柄プロセスフラグに従って該当する処理が選び出されて実行される。そして、普通図柄プロセスフラグの値は、遊技状態に応じて各処理中に更新される。

【００７４】

さらに、ＣＰＵ５６は、スイッチ回路５８を介して、ゲートセンサ１２、始動口センサ１７、カウントセンサ２３および入賞口スイッチ１９ａ，２４ａの状態を入力し、各入賞口や入賞装置に対する入賞があったか否か判定する（スイッチ処理：ステップＳ２９）。ＣＰＵ５６は、さらに、停止図柄の種類を決定する乱数等の表示用乱数を更新する処理を行う（ステップＳ３０）。

【００７５】

また、ＣＰＵ５６は、賞球制御基板３７との間の信号処理を行う（ステップＳ３１）。すなわち、所定の条件が成立すると賞球制御基板３７に賞球制御コマンドを出力する。賞球制御基板３７に搭載されている賞球制御用ＣＰＵは、賞球制御コマンドに応じて玉払出装置９７を駆動する。

【００７６】

以上のように、メイン処理には遊技制御処理に移行すべきか否かを判定する処理が含まれ、ＣＰＵ５６の内部タイマが定期的に発生するタイマ割込にもとづくタイマ割込処理で遊技制御処理に移行すべきか否かを判定するためのフラグがセットされるので、遊技制御処理の全てが確実に実行される。つまり、遊技制御処理の全てが実行されるまでは、次回の遊技制御処理に移行すべきか否かの判定が行われないので、遊技制御処理中の全ての各処理が実行完了することは保証されている。

【００７７】

従来の一般的な遊技制御処理は、定期的に発生する外部割込によって、強制的に最初の状態に戻されていた。図１１に示された例に則して説明すると、例えば、ステップＳ３１の処理中であっても、強制的にステップＳ２１の処理に戻されていた。つまり、遊技制御処理中の全ての各処理が実行完了する前に、次回の遊技制御処理が開始されてしまう可能性があった。

【００７８】

なお、ここでは、主基板３１のＣＰＵ５６が実行する遊技制御処理は、ＣＰＵ５６の内部タイマが定期的に発生するタイマ割込にもとづくタイマ割込処理でセットされるフラグに応じて実行されたが、定期的に（例えば２ｍｓ毎）信号を発生するハードウェア回路を設け、その回路からの信号をＣＰＵ５６の外部割込端子に導入し、割込信号によって遊技制御処理に移行すべきか否かを判定するためのフラグをセットするようにしてもよい。そのように構成した場合にも、遊技制御処理の全てが実行されるまでは、フラグの判定が行われないので、遊技制御処理中の全ての各処理が実行完了することが保証される。

【００７９】

図１２は、電源基板９１０の第１の電源監視回路からの電圧低下信号にもとづく割込に応じて実行される停電発生割込処理の一例を示すフローチャートである。停電発生割込処理において、ＣＰＵ５６は、まず、割込禁止に設定する（ステップＳ４１）。停電発生割込処理ではＲＡＭ内容の保存を確実にするためにチェックサムの生成処理を行う。その処理中に他の割込処理が行われたのではチェックサムの生成処理が完了しないうちにＣＰＵが動作し得ない電圧にまで低下してしまうことがことも考えられるので、まず、他の割込が生じないような設定がなされる。

【００８０】

次いで、ＣＰＵ５６は、全ての出力ポートをオフ状態にする（ステップＳ４３）。そして、必要ならば各レジスタの内容をバックアップＲＡＭ領域に格納する（ステップＳ４４）。さらに、バックアップＲＡＭ領域のバックアップチェックデータ領域に適当な初期値を

設定し（ステップＳ４５）、初期値およびバックアップＲＡＭ領域のデータについて順次排他的論理和をとって（ステップＳ４６）、最終的な演算値をバックアップパリティデータ領域に設定する（ステップＳ４７）。その後、電源断フラグをセットする（ステップＳ４８）。また、ＲＡＭアクセス禁止状態にする（ステップＳ４９）。電源電圧が低下していくときには、各種信号線のレベルが不安定になってＲＡＭ内容が化ける可能性があるが、このようにＲＡＭアクセス禁止状態にしておけば、バックアップＲＡＭ内のデータが化けることはない。

【００８１】

次いで、ＣＰＵ５６は、ループ処理にはいる。すなわち、何らの処理もしない状態になる。従って、図６に示された電源監視用ＩＣ９０４からのリセット信号によって外部から動作禁止状態にされる前に、内部的に動作停止状態になる。よって、電源断時に確実にＣＰＵ５６は動作停止する。その結果、上述したＲＡＭアクセス禁止の制御および動作停止制御によって、電源電圧が低下していくことに伴って生ずる可能性がある異常動作に起因するＲＡＭの内容破壊等を確実に防止することができる。

【００８２】

なお、この実施の形態では、停電発生割込処理では最終部でプログラムをループ状態にしたが、ホールト（ＨＡＬＴ）命令を発行するように構成してもよい。

【００８３】

また、ＲＡＭアクセス禁止にする前にセットされる電源断フラグは、上述したように、電源投入時においてバックアップパリティデータ領域の設定値が「００」であったときに停電からの復旧か否かを判断する際に使用される。また、ステップＳ４１からＳ４９の処理は、第２の電源監視手段が電圧低下信号を発生する前に完了する。換言すれば、第２の電源監視手段が電圧低下信号を発生する前に完了するように、第１の電圧監視手段および第２の電圧監視手段の検出電圧の設定が行われている。

【００８４】

図１３は、図８に示された停電復旧処理（ステップＳ４）の一例を示すフローチャートである。停電復旧処理において、ＣＰＵ５６は、内部状態を電源断時の状態に戻すための遊技状態復旧処理を行うとともに（ステップＳ５３）、電源断フラグをクリアする（ステップＳ５５）。

【００８５】

図１４は、バックアップパリティデータ作成方法を説明するための説明図である。ただし、図１４に示す例では、簡単のために、バックアップデータＲＡＭ領域のデータのサイズを３バイトとする。電源電圧低下にもとづく停電発生処理において、図１４（Ａ）に示すように、バックアップチェックデータ領域に、初期データ（この例では００Ｈ）が設定される。次に、「００Ｈ」と「Ｆ０Ｈ」の排他的論理和がとられ、その結果と「１６Ｈ」の排他的論理和がとられる。さらに、その結果と「ＤＦＨ」の排他的論理和がとられる。そして、その結果（この例では「３９Ｈ」）がバックアップパリティデータ領域に設定される。

【００８６】

電源が再投入されたときには、メイン処理のチェックサム確認処理（ステップＳ２）においてパリティ診断が行われるが、図１４（Ｂ）はパリティ診断の例を示す説明図である。バックアップ領域の全データがそのまま保存されていれば、電源再投入時に、図１４（Ａ）に示すようなデータがバックアップ領域に設定されている。

【００８７】

ステップＳ５１の処理において、ＣＰＵ５６は、バックアップＲＡＭ領域のバックアップパリティデータ領域に設定されていたデータ（この例では「３９Ｈ」）を初期データとして、バックアップデータ領域の各データについて順次排他的論理和をとる処理を行う。バックアップ領域の全データがそのまま保存されていれば、最終的な演算結果は、「００Ｈ」、すなわちバックアップチェックデータ領域に設定されているデータと一致する。バックアップＲＡＭ領域内のデータにビット誤りが生じていた場合には、最終的な演算結果は

「００Ｈ」にならない。
【００８８】
よって、ＣＰＵ５６は、パリティチェック処理（チェックサム確認処理）において、最終的な演算結果とバックアップチェックデータ領域に設定されているデータとを比較して、一致すればパリティ診断正常とする。一致しなければ、パリティ診断異常とする。
【００８９】
以上のように、この実施の形態では、遊技制御手段には、遊技機の電源が断しても、所定期間電源バックアップされるバックアップＲＡＭが設けられ、電源投入時に、ＣＰＵ５６（具体的にはＣＰＵ５６が実行するプログラム）は、バックアップＲＡＭがバックアップ状態にあればバックアップデータにもとづいて遊技状態を回復させる遊技状態復旧処理（ステップＳ５３）を行うように構成される。従って、電源断が発生しても遊技者に不利益がもたらされることを防止することができる遊技機が提供される。
【００９０】
また、電源投入時に、バックアップＲＡＭ領域のデータチェック（この例ではパリティチェック）が行われる。不測の電源断が生じた後に復旧した場合には、バックアップＲＡＭ領域のデータは保存されていたはずであるから、チェック結果は正常になる。チェック結果が正常でない場合には、内部状態を電源断時の状態に戻すことができないので、停電復旧時でない電源投入時に実行される初期化処理（ステップＳ６）が実行される。
【００９１】
さらに、図８に示されたメイン処理において、バックアップパリティデータ領域に設定されていたデータが「００」でないときにチェックサム確認処理が行われ（ステップＳ１，Ｓ２）、バックアップパリティデータ領域に設定されていたデータが「００」である場合には、停電復旧処理を行うか否か、すなわち、遊技状態を復旧できるか否かが電源断フラグによって判定される。すると、電源断時に算出したチェックサムがたまたま「００」になった場合にも、遊技状態復旧処理が実行されることになる。
【００９２】
電源断時に算出したチェックサムが「００」である場合には、電源投入時に実行されるチェックサム確認処理において、電源断時の演算と全く同じ演算が実行されることになる（図１４の例で、初期データとパリティデータとが一致するので）。よって、パリティチェックの信頼性がなくなる。しかし、この実施の形態では、チェックサムがそのような所定の値になっていても、遊技状態を復旧することができる。
【００９３】
また、停電復旧処理を実行するか否か判断する場合に、すなわち、遊技状態を復旧するか否か判断する際に、保存されていたＲＡＭデータにおける特別プロセスフラグ等や始動入賞記憶数データによって、遊技機が遊技待機状態（図柄変動中でなく、大当り遊技中でなく、確変中でなく、また、始動入賞記憶がない状態）であることが確認されたら、遊技状態復旧処理を行わずに初期化処理を実行するようにしてもよい。
【００９４】
以下、遊技状態復旧処理について説明する。
まず、この実施の形態において、主基板３１のＣＰＵ５６が、表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５に送出する表示制御コマンド、音制御コマンドおよびランプ制御コマンドについて説明する。各制御コマンドは、図１１に示された遊技制御処理における特別図柄プロセス処理（ステップＳ２７）で遊技進行に応じて送出することが決定され、表示制御データ設定処理（ステップＳ２１）で具体的なデータが設定され、表示制御データ出力処理（ステップＳ２２）で出力ポートから出力されることによって送出される。
【００９５】
図１５（Ａ）は、可変表示部９における図柄変動に関する各制御コマンドの送出タイミング例を示す説明図である。この実施の形態では、主基板３１のＣＰＵ５６は、図柄変動を開始させるときに、表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５のそれ

ぞれに対して変動開始コマンドを送出する。表示制御基板８０に対しては、さらに、左右中図柄の確定図柄を示す図柄指定コマンドを送出する。

【００９６】

そして、図柄変動を確定させるときに、表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５のそれぞれに対して変動停止コマンドを送出する。表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５に搭載されている各ＣＰＵは、変動開始コマンドで指定された変動態様に応じた表示制御、音発生制御およびランプ点灯制御を行う。なお、変動開始コマンドには変動時間を示す情報が含まれている。

【００９７】

図１５（Ｂ）は、可変表示部９の表示結果が所定の大当り図柄であった場合に実行される大当り遊技に関する各制御コマンドの送出タイミング例を示す説明図である。この実施の形態では、主基板３１のＣＰＵ５６は、大当り遊技開始時に、表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５のそれぞれに対して大当り開始コマンドを送出する。また、所定時間経過後に、１ラウンド（１Ｒ）指定コマンドを送出する。表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５に搭載されている各ＣＰＵは、大当り開始コマンドを受信すると、大当り開始時の表示制御、音発生制御およびランプ点灯制御を行う。また、１ラウンド指定コマンドを受信すると、大当り中の表示制御、音発生制御およびランプ点灯制御を行う。ただし、表示制御基板８０のＣＰＵは、１ラウンド目の表示を行う。

【００９８】

その後、主基板３１のＣＰＵ５６は、表示制御基板８０に対して各ラウンドを示すコマンド等を順次送出する。表示制御基板８０のＣＰＵは、それらのコマンドに応じて対応する表示制御を行う。

【００９９】

また、大当り遊技終了時に、主基板３１のＣＰＵ５６は、表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５のそれぞれに対して大当り終了コマンドを送出する。そして、所定時間経過後に、通常画面表示コマンドを送出する。各遊技装置制御手段は、通常画面表示コマンドを受信すると、制御状態を遊技待ちの状態にする。

【０１００】

図１６は、図１３に示された停電復旧処理で行われる遊技状態復旧処理（ステップＳ５３）の一例を示すフローチャートである。この例では、ＣＰＵ５６は、レジスタ内容を復元する必要があれば、バックアップＲＡＭに保存されていた値をレジスタに復元する（ステップＳ６１）。そして、バックアップＲＡＭに保存されていたデータにもとづいて停電時の遊技状態を確認する。例えば、特別図柄プロセス処理の進行状況に対応した特別図柄プロセスフラグの値によって遊技状態を確認することができる。

【０１０１】

遊技状態が図柄変動中であった場合には（ステップＳ６２）、変動開始コマンドを表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５に送出する制御を行う（ステップＳ６３）。また、遊技状態が大当り遊技中であった場合には（ステップＳ６４）、停電前に最後の送出された制御コマンドを表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５に送出する制御を行う（ステップＳ６５）。そして、それ以外の遊技状態であった場合には、例えば、通常画面表示コマンドを制御コマンドを表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５に送出する制御を行う（ステップＳ６６）。また、例えば、大当り中であった場合の可変入賞球装置１５の状態復帰は、ＲＡＭのデータが保存されているため、後の遊技制御処理内で自動的に行われる。

【０１０２】

図１７は、停電が発生した後に復旧した場合の制御状態の一例を示す説明図である。図１７において、可変表示の状態は表示制御基板８０のＣＰＵ（表示制御手段）によって実現され、音の状態は音制御基板７０のＣＰＵ（音制御手段）によって実現され、ランプの状態はランプ制御基板３５のＣＰＵ（ランプ制御手段）によって実現される。

【０１０３】
図１７（Ａ）は、図柄変動中に停電が生じた後に復旧した場合の例を示す。この場合には、電源復旧時に、主基板３１から変動開始コマンドが送出される（図１６におけるステップＳ６３）。変動開始コマンドは、図柄変動開始時に送出されるコマンドであるから、可変表示制御、音制御およびランプ制御の状態は、変動開始時の状態に戻る。この実施の形態では、変動開始コマンドには変動時間を指定する情報を含まれ、主基板３１のＣＰＵ５６は変動開始コマンド送出後では変動終了時の確定コマンド（変動停止コマンド）まで何も送出しない（図柄指定コマンドを除く）。従って、図柄変動中に停電が生じた場合には、変動途中の状態から変動を再開することはできないが、変動開始コマンドを再送出することによって、表示制御、音制御およびランプ制御は同期した状態に戻る。

【０１０４】
なお、主基板３１において、変動開始時に使用した各種パラメータはバックアップＲＡＭに保存されている。従って、電源復旧後の変動における表示結果（確定図柄）等は、停電によって中断した変動においてなされるはずであった表示結果等と同じである。従って、遊技者に不利益が与えられるということはない。

【０１０５】
図１７（Ｂ）は、大当り遊技中に停電が生じた後に復旧した場合の例を示す。この場合には、電源復旧時に、主基板３１から停電前の最後に表示制御基板８０、音制御基板７０およびランプ制御基板３５に送出されたコマンドが再送出される（図１５におけるステップＳ６５）。従って、音制御およびランプ制御は、大当り遊技中の制御状態に戻る。また、表示制御も、停電時に行われていた状態に戻る。

【０１０６】
なお、主基板３１において、大当り遊技中の各種パラメータ（大入賞口開放回数、大入賞口入賞球数等）はバックアップＲＡＭに保存されている。従って、遊技者にとっての遊技状態も停電前の状態に戻るので、遊技者に不利益が与えられるということはない。

【０１０７】
なお、上記の実施の形態では、遊技制御手段において、データ保存処理および復旧処理が行われる場合について説明したが、賞球制御手段、音声制御手段、ランプ制御手段および表示制御手段におけるＲＡＭの一部も電源バックアップされ、賞球制御手段、表示制御手段、音制御手段およびランプ制御手段も、上述したような処理を行ってもよい。ただし、賞球制御手段、表示制御手段、音制御手段およびランプ制御手段は、復旧時にコマンド送出処理を行う必要はない。

【０１０８】
また、この実施の形態では、２つの電源監視回路が設けられている。そして、電源電圧が低下していくときに、第２の電源監視手段（この例では電源監視用ＩＣ９０４）が電圧低下信号を発生する時期は、第１の電源監視手段（この例では電源監視用ＩＣ９０２）が電圧低下信号を発生する時期よりも遅くなるように設定されている。さらに、第２の電源監視手段からの電圧低下信号は、ＣＰＵ５６のリセット端子に入力されている。

【０１０９】
すると、ＣＰＵ５６は、第１の電源監視回路（電源監視用ＩＣ９０２）からの電圧低下信号にもとづいて停電発生処理（電源断時処理）を実行した後に電源断待ちに入るのであるが、電源断待ち状態において、リセット状態に入ることになる。すなわち、ＣＰＵ５６の動作が停止する。電源待ち状態では＋５Ｖ電源電圧値が徐々に低下するので入出力状態が不定になるが、ＣＰＵ５６はリセット状態になるので、不定データにもとづいて異常動作してしまうことは防止される。

【０１１０】
このように、この実施の形態では、ＣＰＵ５６が、第１の電源監視手段からの検出出力の入力に応じて電源断時処理を実行するとともに、第２の電源監視手段（電源監視用ＩＣ９０４）からの検出出力の入力に応じてシステムリセットされるように構成したので、電源断時に確実なデータ保存を行うことができ、遊技者に不利益がもたらされることを防止す

ることができる。
【０１１１】
なお、第１の電源監視手段は電源基板９１０に搭載され、第２の電源監視手段は主基板３１に搭載されていたが、第２の電源監視手段を電源基板９１０に搭載し、第１の電源監視手段を主基板３１に搭載してもよい。
【０１１２】
また、上記の実施の形態では、第１の電源監視手段からの検出信号がマイクロコンピュータのＩＲＱ端子に入力され割込処理によって電源断時処理が実行される場合を例にとったが、第１の電源監視手段からの検出信号をマスク不能割込端子（ＮＭＩ端子）に入力しＮＭＩ端子への割込信号にもとづくＮＭＩ処理によって電源断時処理を実行するようにしてもよい。また、入力ポートを介して第１の電圧低下信号を検知してもよい。その場合には、ＣＰＵ５６が実行するメイン処理において、入力ポートの監視が行われる。
【０１１３】
次に、賞球制御手段の停電発生時の動作について説明する。
図１８は、電源監視および電源バックアップのための賞球制御用ＣＰＵ３７１周りの一構成例を示すブロック図である。図１８に示すように、電源基板９１０に搭載されている第１の電源監視回路（第１の電源監視手段）からの電圧低下信号が、賞球制御用ＣＰＵ３７１の割込端子（ＩＲＱ端子）に入力されている。従って、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、割込処理によって電源断の発生を確認することができる。
【０１１４】
賞球制御用ＣＰＵ３７１等の駆動電源である＋５Ｖ電源から電力が供給されていない間、賞球制御用ＣＰＵ３７１の内蔵ＲＡＭの少なくとも一部は、電源基板９１０から供給されるバックアップ電源がバックアップ端子に接続されることによってバックアップされ、遊技機に対する電源が断しても内容は保存される。そして、＋５Ｖ電源が復旧すると、初期リセット回路９３５からリセット信号が発せられるので、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、通常の動作状態に復帰する。そのとき、必要なデータがバックアップされているので、停電等からの復旧時には停電発生時の遊技状態に復帰することができる。
【０１１５】
図１８に示す構成では、賞球制御基板３７には、第２の電源監視回路９３３が搭載されている。この例では、第２の電源監視回路９３３において、電源監視用ＩＣ９３４が、電源基板９１０の第１の電源監視回路が監視する電源電圧と等しい電圧である＋３０Ｖ電源電圧を監視して電圧値が所定値以下になるとローレベルの電圧低下信号を発生する。第２の電源監視回路９３３が設けられている場合には、第２の電源監視回路９３３の検出電圧（電圧低下信号を出力することになる電圧）を、電源基板９１０に搭載されている第１の電源監視回路の検出電圧よりも低くする。
【０１１６】
第２の電源監視回路９３３からの電圧低下信号は、初期リセット回路９３５からの初期リセット信号と論理和をとられた後に、賞球制御用ＣＰＵ３７１のリセット端子に入力される。従って、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、初期リセット回路９３５からの初期リセット信号がローレベルを呈しているとき、または、第２の電源監視回路９３３からの電圧低下信号がローレベルを呈しているときに、リセット状態（非動作状態）になる。
【０１１７】
図１９は、主基板３１から賞球制御基板３７に送信される賞球制御コマンドのビット構成の一例を示す説明図である。図１９に示すように、１バイト中の上位４ビットが制御指定部として使用され、下位４ビットが賞球数を示す領域として用いられる。
【０１１８】
図２０に示すように、制御指定部において、ビット７，６，５，４が「０，１，０，０」であれば払出個数指定コマンドであることを示す。払出個数指定コマンドは、主基板３１のＣＰＵ５６が入賞を検出すると直ちに賞球制御基板３７に送出される。
【０１１９】

ビット７，６，５，４が「１，０，０，０」である球切れ指定コマンドは、補給玉がなくなったことが検出されたときに主基板３１から送信される。また、ビット７，６，５，４が「１，０，０，１」である発射停止指定コマンドは、余剰玉受皿４が満タンになって満タンスイッチ４８がオンしたとき（満タン状態フラグがオンしたとき）に主基板３１から送信される。

【０１２０】

賞球制御コマンドは、主基板３１から賞球制御基板３７に、１バイト（８ビット：賞球制御コマンドＤ７～Ｄ０）のデータとして出力される。賞球制御コマンドＤ７～Ｄ０は正論理で出力される。また、賞球制御コマンドＤ７～Ｄ０が出力されたときには、負論理の賞球制御ＩＮＴ信号が出力される。

【０１２１】

この実施の形態では、図２１に示すように、主基板３１から賞球制御コマンドＤ７～Ｄ０が出力されるときに、賞球制御ＩＮＴ信号が５μｓ以上ローレベルになる。賞球制御ＩＮＴ信号は、賞球制御基板３７において、賞球制御用ＣＰＵ３７１の割込端子に接続されている。よって、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、割り込みがあると、賞球制御コマンドＤ７～Ｄ０が主基板３１から送出されたことを認識でき、割込処理において賞球制御コマンド受信処理を行う。

【０１２２】

なお、図１９に示されたコマンド構成は一例であって、他の構成にしてもよい。例えば、１バイト中の上位下位を、図１９に示された構成とは逆にしてもよい。

【０１２３】

図２２は、賞球制御用ＣＰＵ３７１のメイン処理を示すフローチャートである。メイン処理では、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、まず、ＲＡＭ領域をクリアする等の初期値設定処理を行う（ステップＳ７０１）。なお、内蔵ＲＡＭの電源バックアップされたＲＡＭ領域（バックアップＲＡＭ領域）にデータが設定されている場合には、それらの領域のクリア処理はなされない。その後、この実施の形態では、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、タイマ割込フラグの監視（ステップＳ７０２）の確認を行うループ処理に移行する。

【０１２４】

ステップＳ７０１の初期化処理では、後述する総合個数記憶等の値が０でない場合には、非バックアップＲＡＭ領域をクリアする。そして、賞球再開のための設定を行う。例えば、賞球中処理中フラグのセット等を行う。なお、バックアップＲＡＭ領域であっても、賞球個数や玉貸し個数に関わらない領域であるならば、それらのアドレスを指定してクリアするようにしてもよい。さらに、それら処理の他に、２ｍｓ毎に定期的にタイマ割込がかかるように賞球制御用ＣＰＵ３７１に設けられているタイマレジスタの初期設定（タイムアウトが２ｍｓであることと繰り返しタイマが動作する設定）が行われる。すなわち、タイマ割込を能動化する処理と、タイマ割込インタバルを設定する処理とが実行される。

【０１２５】

従って、この実施の形態では、賞球制御用ＣＰＵ３７１の内部タイマが繰り返しタイマ割込を発生するように設定される。この実施の形態では、繰り返し周期は２ｍｓに設定される。そして、図２３に示すように、タイマ割込が発生すると、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、タイマ割込フラグをセットする（ステップＳ７１１）。

【０１２６】

賞球制御用ＣＰＵ３７１は、ステップＳ７０２において、タイマ割込フラグがセットされたことを検出すると、タイマ割込フラグをリセットするとともに（ステップＳ７０３）、賞球制御処理および玉貸し制御処理を実行する（ステップＳ７０５，Ｓ７０６）。以上の制御によって、この実施の形態では、賞球制御処理および玉貸し制御処理は２ｍｓ毎に起動されることになる。なお、この実施の形態では、タイマ割込処理ではフラグセットのみがなされ、賞球制御処理等はメイン処理において実行されるが、タイマ割込処理で賞球制御処理等を実行してもよい。

【０１２７】

図２４は、賞球制御用ＣＰＵ３７１が内蔵するＲＡＭの使用例を示す説明図である。この例では、バックアップＲＡＭ領域に総合個数記憶（例えば２バイト）および貸し玉個数記憶が形成されている。総合個数記憶は、主基板３１の側から指示された払出個数の総数を記憶するものである。貸し玉個数記憶は、未払出の玉貸し個数を記憶するものである。

【０１２８】

図２５は、割込処理による賞球制御コマンド受信処理を示すフローチャートである。主基板３１からの賞球制御ＩＮＴ信号は賞球制御用ＣＰＵ３７１の割込端子に入力されている。よって、主基板３１からの賞球制御ＩＮＴ信号がオン状態になると、賞球制御用ＣＰＵ３７１に割込がかかり、図２５に示す賞球制御コマンドの受信処理が開始される。

【０１２９】

賞球制御コマンドの受信処理において、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、まず、賞球制御コマンドデータの入力に割り当てられている入力ポートから１バイトのデータを読み込む（ステップＳ８５２）。読み込んだデータが払出個数指示コマンドであれば（ステップＳ８５３）、払出個数指示コマンドで指示された個数を総合個数記憶に加算する（ステップＳ８５５）。そうでなければ、通信終了フラグをセットする（ステップＳ８５４）。なお、通信終了フラグは、この例では、払出個数指示コマンド以外のコマンドを受信したことを示すフラグである。

【０１３０】

以上のように、賞球制御基板３７に搭載された賞球制御用ＣＰＵ３７１は、主基板３１のＣＰＵ５６から送られた払出個数指示コマンドに含まれる賞球数をバックアップＲＡＭ領域（総合個数記憶）に記憶する。

【０１３１】

図２６は、賞球制御処理（ステップＳ７０５）を示すフローチャートである。賞球制御処理において、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、総合個数記憶が０でないか否かの確認を行う（ステップＳ５１１）。総合個数記憶が０でなければ、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、賞球払出処理を行う（ステップＳ５１２）。賞球払出処理では、払出モータ２８９がオンしていなければオンするとともに、賞球カウントスイッチ３０１Ａの検出出力によって遊技球の払出がなされたか否かの確認を行う。そして、１個の払出が行われたことを確認したら（ステップＳ５１３）、総合個数記憶の値を－１する（ステップＳ５１４）。また、総合個数記憶の値が０になったら（ステップＳ５１５）、払出モータ２８９をオフする（ステップＳ５１６）。

【０１３２】

総合個数記憶の内容は、遊技機の電源が断しても、所定期間電源基板９１０のバックアップ電源によって保存される。従って、所定期間中に電源が回復すると、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、総合個数記憶の内容にもとづいて賞球払出処理を継続することができる。

【０１３３】

賞球制御用ＣＰＵ３７１は、電源投入時に、バックアップＲＡＭ領域のデータを確認するだけで、通常の初期設定処理を行うのか賞球中の状態を復元するのか決定できる。すなわち、簡単な判断によって、未払出賞球について賞球処理再開を行うことができる。

【０１３４】

なお、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、主基板３１から指示された賞球個数を総合個数記憶で総数として管理したが、賞球数毎（例えば１５個、１０個、６個）に管理してもよい。例えば、賞球数毎に対応した個数カウンタを設け、払出個数指定コマンドを受信すると、そのコマンドで指定された個数に対応する個数カウンタを＋１する。そして、賞球数毎の賞球払出が終了すると、対応する個数カウンタを－１する。その場合にも、各個数カウンタはバックアップＲＡＭ領域に形成される。よって、遊技機の電源が断しても、所定期間中に電源が回復すれば、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、各個数カウンタの内容にもとづいて賞球払出処理を継続することができる。

【０１３５】

図２７は、玉貸し制御処理（ステップＳ７０６）を示すフローチャートである。玉貸し制

御処理において、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、賞球払出中であるか否かかチェックする（ステップＳ５３１）。賞球払出中でなければ、貸し玉個数記憶が０でないか否かの確認を行う（ステップＳ５３２）。貸し玉個数記憶が０でなければ、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、玉貸し処理を行う（ステップＳ５３３）。玉貸し処理では、払出モータ２８９がオンしていなければオンするとともに、玉貸しカウントスイッチ３０１Ｂの検出出力によって遊技球の払出がなされたか否かの確認を行う。そして、１個の払出が行われたことを確認したら（ステップＳ５３４）、貸し玉個数記憶の値を－１する（ステップＳ５３５）。また、貸し玉個数記憶の値が０になったら（ステップＳ５３６）、払出モータ２８９をオフする（ステップＳ５３７）。なお、この実施の形態では、賞球も玉貸しも同じ払出装置で行われる。

【０１３６】

次に、カードユニット５０から玉貸し要求があったか否かを確認し（ステップＳ５３８）、要求があれば要求単位数に応じた個数を貸し玉個数記憶の値に加算する（ステップＳ５３９）。

【０１３７】

貸し玉個数記憶の内容は、遊技機の電源が断しても、所定期間電源基板９１０のバックアップ電源によって保存される。従って、所定期間中に電源が回復すると、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、貸し玉個数記憶の内容にもとづいて玉貸し処理を継続することができる。

【０１３８】

なお、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、カードユニット５０から単位数（例えば１００円単位）で要求された玉貸し個数を貸し玉個数記憶で総数として管理したが、単位数で管理してもよい。例えば、玉貸し回数カウンタを設け、玉貸し要求があると、玉貸し回数カウンタを＋１する。そして、単位数の払出が終了すると、玉貸し回数カウンタを－１する。その場合にも、玉貸し回数カウンタはバックアップＲＡＭ領域に形成される。よって、遊技機の電源が断しても、所定期間中に電源が回復すれば、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、玉貸し回数カウンタの内容にもとづいて玉貸し処理を継続することができる。

【０１３９】

図２８は、賞球制御用ＣＰＵ３７１が第１の電源監視手段からの割込に応じて実行される停電発生割込処理を示すフローチャートである。電源基板９０１の電源監視用ＩＣ９０２が電源電圧の低下を検出すると電圧低下信号が電圧低下を示す状態となり、停電発生割込処理が開始される。停電発生割込処理において、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、割込禁止に設定し（ステップＳ８０１）、ＲＡＭアクセス禁止状態に設定して（ステップＳ８０２）、ループ処理にはいる。すなわち、何らの処理もしない状態になる。

【０１４０】

すなわち、ＣＰＵ自身を、リセット解除または割込発生以外では動作しない状態にする。従って、図１８に示された電源監視用ＩＣ９３４からのリセット信号によって外部から動作禁止状態にされる前に、内部的に動作停止状態になる。よって、電源断時に確実に賞球制御用ＣＰＵ３７１は動作停止する。その結果、上述したＲＡＭアクセス禁止の制御および動作停止制御によって、電源電圧が低下していくことに伴って生ずる可能性がある異常動作に起因するＲＡＭの内容破壊等を確実に防止することができる。

【０１４１】

なお、この実施の形態では、停電発生割込処理では最終部でプログラムをループ状態にしたが、ホールト（ＨＡＬＴ）命令を発行するように構成してもよい。

【０１４２】

また、遊技制御手段の場合と同様に、停電発生割込処理において、電源バックアップされているＲＡＭのデータを対象にチェックサムを生成し、チェックサムも保存するようにしてもよい。

【０１４３】

図２９は、賞球制御用ＣＰＵ３７１が電源投入時に実行する初期化処理（ステップＳ７０１）の一部を示すフローチャートである。電源が投入され、または、電源が復旧したとき

には、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、まず、バックアップＲＡＭ領域に形成されている総合個数記憶または貸し玉個数記憶の値が０でないかどうか確認する（ステップＳ９０１）。ともに０である場合には、前回の電源オフ時に未払出遊技球はなかったことになるので、通常の初期設定処理を行う。すなわち、レジスタおよび全ＲＡＭ領域をクリアして（ステップＳ９０３）、スタックポインタの初期設定を行う（ステップＳ９０４）。

【０１４４】

総合個数記憶または貸し玉個数記憶の値が０でない場合には、アドレスを指定してレジスタと非バックアップＲＡＭ領域をクリアする（ステップＳ９０５）。そして、賞球または玉貸し再開のための設定を行う。例えば、賞球中処理中フラグのセット等を行う（ステップＳ９０６）。なお、バックアップＲＡＭ領域であっても、払出個数に関わらない領域であるならば、それらのアドレスを指定してクリアするようにしてもよい。

【０１４５】

このように、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、電源投入時に、バックアップＲＡＭ領域のデータを確認するだけで、通常の初期設定処理を行うのか賞球中の状態を復元するのか決定できる。すなわち、簡単な判断によって、未払出賞球および未払出貸し玉について払出処理再開を行うことができる。

【０１４６】

なお、賞球制御用ＣＰＵ３７１も、主基板３１のＣＰＵ５６と同様に、電源断処理においてパリティデータおよび電源断フラグを設定し、電源投入時に、パリティデータおよび電源断フラグによって初期化処理を行うか否か決定してもよい。

【０１４７】

この実施の形態では、賞球制御用ＣＰＵ３７１は、マスク可能外部割込端子（ＩＲＱ端子）電源基板からの第１の電圧低下信号（第１の電源監視手段からの電圧低下信号）を検知したが、第１の電圧低下信号をマスク不能割込割込端子（ＮＭＩ端子）に導入してもよい。その場合には、ＮＭＩ処理によって図２８に示された停電発生処理が実行される。また、入力ポートを介して第１の電圧低下信号を検知してもよい。その場合には、賞球制御用ＣＰＵ３７１が実行するメイン処理において、入力ポートの監視が行われる。

【０１４８】

また、図２９に示されたステップＳ９０１の処理を実行する際に、保存されているパリティデータにもとづくパリティチェック（チェックサム確認）を行ってもよい。

【０１４９】

なお、上記の各実施の形態のパチンコ遊技機１は、始動入賞にもとづいて可変表示部９に可変表示される特別図柄の停止図柄が所定の図柄の組み合わせになると所定の遊技価値が遊技者に付与可能になる第１種パチンコ遊技機であったが、始動入賞にもとづいて開放する電動役物の所定領域への入賞があると所定の遊技価値が遊技者に付与可能になる第２種パチンコ遊技機や、始動入賞にもとづいて可変表示される図柄の停止図柄が所定の図柄の組み合わせになると開放する所定の電動役物への入賞があると所定の権利が発生または継続する第３種パチンコ遊技機であっても、本発明を適用できる。

【０１５０】

【発明の効果】

以上のように、本発明によれば、遊技機を、遊技装置制御手段が、電源監視手段が所定電位電源の電圧低下を検出した場合に、所定の電源断時処理を行うとともに、電源復帰時に記憶手段の保持データにもとづいて、初期化処理を行うか遊技状態を電源断前の状態に復帰させる復帰時処理を行うかを決定するように構成したので、停電等の不測の電源断が発生したときに必要なデータを確実に保存することができ、さらに、保存されていたデータを電源復帰後に確実に活用することができる効果がある。

【０１５１】

記憶手段で保持される変動データには少なくとも遊技状態を示す遊技状態データが含まれ、復帰時処理には、遊技状態の復元を行うための遊技状態データ読み出し処理が含まれるように構成されている場合には、保持されていたデータを用いて遊技状態復帰処理を行う

ことができるので、復元される遊技状態は正確である。

【０１５２】

初期化処理を行うか復帰時処理を行うかを決定するために用いられる保持データがチェックサムである場合には、容易に演算できるチェックサムによって初期化処理を行うか復帰時処理を行うかを判断することができる。

【０１５３】

電源断時にチェックサムを演算して記憶手段に保持させるとともに、電源復帰時に、チェックサムによって記憶手段の保持データの確認を行い保持データが正当であれば復帰時処理を行う構成されている場合には、電源断時や電源断中に変化してしまったデータにもとづいて復帰時処理が実行されてしまうことは防止され、遊技状態が不正確に復元されてしまうようなことはない。

【０１５４】

遊技装置制御手段が、保持データが正当でなかった場合には初期化処理を行うように構成されている場合には、電源断時や電源断中に変化してしまったデータがあった場合には初期化処理が実行されることになるので、遊技状態が不正確に復元されてしまうようなことはない。

【０１５５】

遊技装置制御手段が、電源復帰時に、チェックサムが所定値であった場合には電源断を示すフラグの状態を確認し、そのフラグが電源断を示していれば復帰時処理を行うように構成されている場合には、電源断時に保持されるチェックサムの値がたまたまチェックに適していない値になったとしても、遊技状態を復旧させることが可能になる。

【０１５６】

電源断時処理に記憶手段へのアクセスを防止する処理が含まれている場合には、電源断時に記憶手段内のデータが破壊されることをより確実に防止できる。

【０１５７】

電源監視手段が電圧低下を検出した所定期間後に電源電圧低下を検出する第２の電源監視手段が設けられ、遊技制御マイクロコンピュータが、第２の電源監視手段からの検出出力の入力に応じてシステムリセットされるように構成されている場合には、システムリセットによって遊技装置制御手段の動作が外部からも停止されるので、電源断時により確実なデータ保存を行うことができる。

【０１５８】

遊技装置制御手段が景品払出制御を行う払出制御手段であり、遊技機の電源断時でも保持されるデータが、払出装置から払い出される景品遊技媒体の残量に関わるデータであるように構成されている場合には、停電等からの復旧時に、未払出の景品遊技媒体の払出を自動的に再開できる。

【０１５９】

遊技装置制御手段が遊技媒体貸出制御を行う払出制御手段であり、遊技機の電源断時でも保持されるデータが、払出装置から払い出される遊技媒体の残量に関わるデータであるように構成されている場合には、停電等からの復旧時に、未貸出の遊技媒体の払出を自動的に再開できる。

【０１６０】

所定の景品遊技媒体を払い出す払出装置が遊技媒体を貸し出すことも可能であり、遊技機の電源断時でも保持されるデータには払出装置から払い出される貸出遊技媒体の残量に関わるデータも含まれるように構成されている場合には、一体構成されている払出装置を用いて、停電等からの復旧時に、未払出の景品遊技媒体および未貸出の遊技媒体の払出を自動的に再開できる。

【図面の簡単な説明】

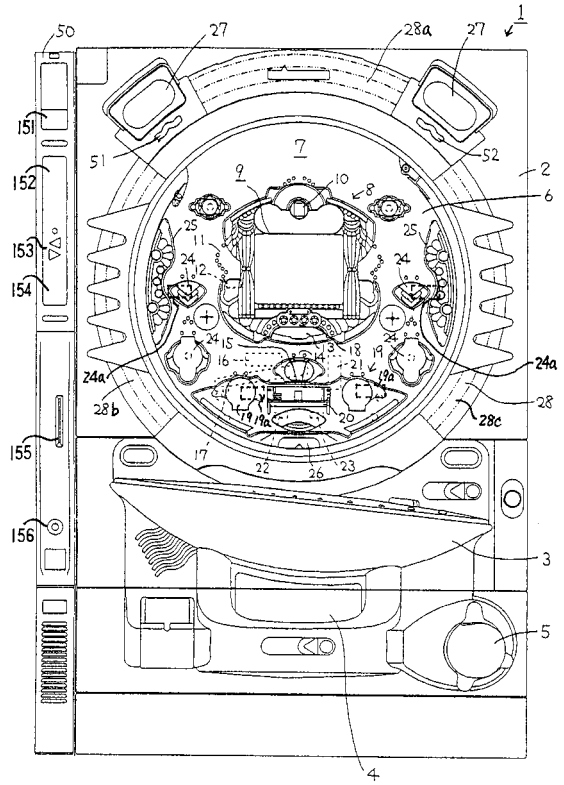
【図１】パチンコ遊技機を正面からみた正面図である。

【図２】パチンコ遊技機の遊技盤を正面からみた正面図である。

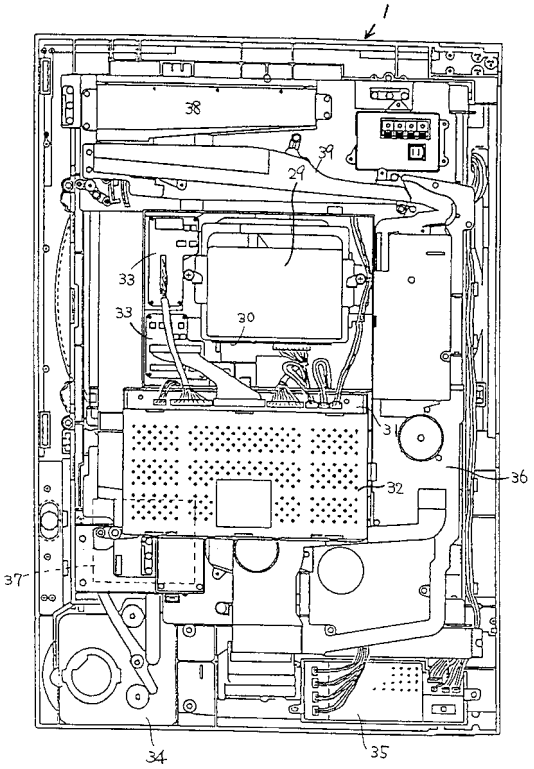
【図３】パチンコ遊技機を背面からみた背面図である。

【図４】遊技制御基板（主基板）の回路構成例を示すブロック図である。
【図５】賞球制御基板および玉払出装置の構成要素などの賞球に関連する構成要素を示すブロック図である。
【図６】電源監視および電源バックアップのためのＣＰＵ周りの一構成例を示すブロック図である。
【図７】電源基板の一構成例を示すブロック図である。
【図８】主基板におけるＣＰＵが実行するメイン処理を示すフローチャートである。
【図９】初期化処理を示すフローチャートである。
【図１０】２ｍｓタイマ割込処理を示すフローチャートである。
【図１１】遊技制御処理を示すフローチャートである。
【図１２】停電発生処理を示すフローチャートである。
【図１３】停電復旧処理を示すフローチャートである。
【図１４】バックアップパリティデータ作成方法を説明するための説明図である。
【図１５】主基板からの各制御コマンドの送出タイミング例を示す説明図である。
【図１６】遊技状態復旧処理の一例を示すフローチャートである。
【図１７】停電が発生した後に復旧した場合の制御状態の一例を示す説明図である。
【図１８】電源監視および電源バックアップのための賞球制御用ＣＰＵ周りの一構成例を示すブロック図である。
【図１９】賞球制御コマンドの構成例を示す説明図である。
【図２０】賞球制御コマンドのビット構成を示す説明図である。
【図２１】賞球制御コマンドデータの出力の様子を示すタイミング図である。
【図２２】賞球制御用ＣＰＵが実行するメイン処理を示すフローチャートである。
【図２３】賞球制御用ＣＰＵのタイマ割込処理を示すフローチャートである。
【図２４】賞球制御手段におけるＲＡＭの一構成例を示す説明図である。
【図２５】賞球制御用ＣＰＵのコマンド受信処理を示すフローチャートである。
【図２６】賞球制御処理を示すフローチャートである。
【図２７】玉貸し制御処理を示すフローチャートである。
【図２８】賞球制御用ＣＰＵが実行する停電発生処理を示すフローチャートである。
【図２９】賞球制御用ＣＰＵの初期化処理の一例を示すフローチャートである。
【符号の説明】
１　　パチンコ遊技機
３１　　主基板
３７　　賞球制御基板
５３　　基本回路
５６　　ＣＰＵ
３７１　賞球制御用ＣＰＵ
９０２，９０４，９３４　電源監視用ＩＣ
９１０　電源基板

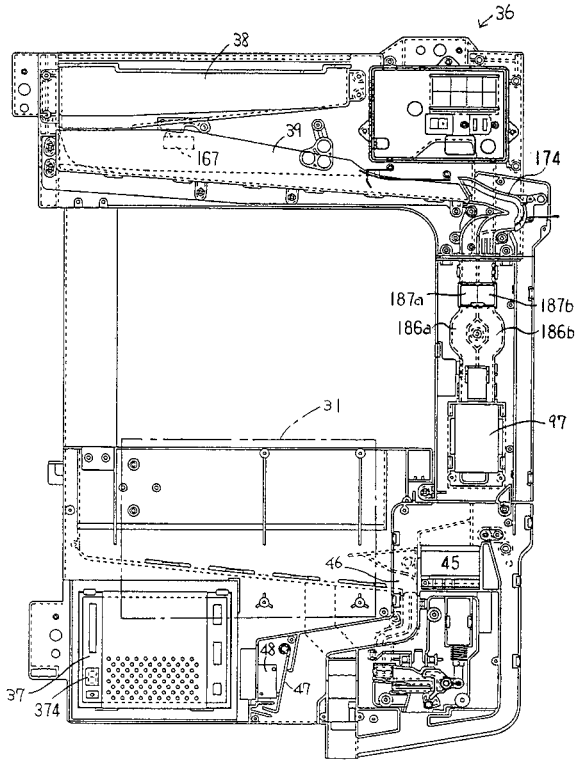
【図１】



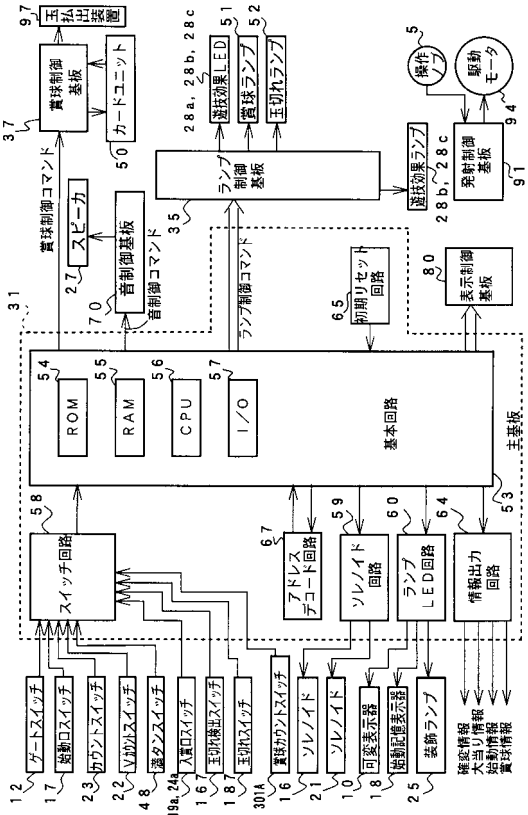
【図２】



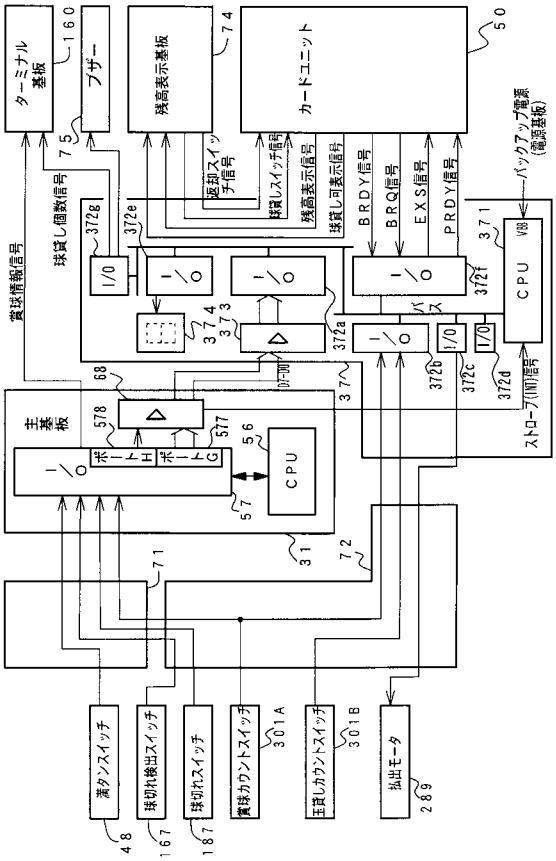
【図３】



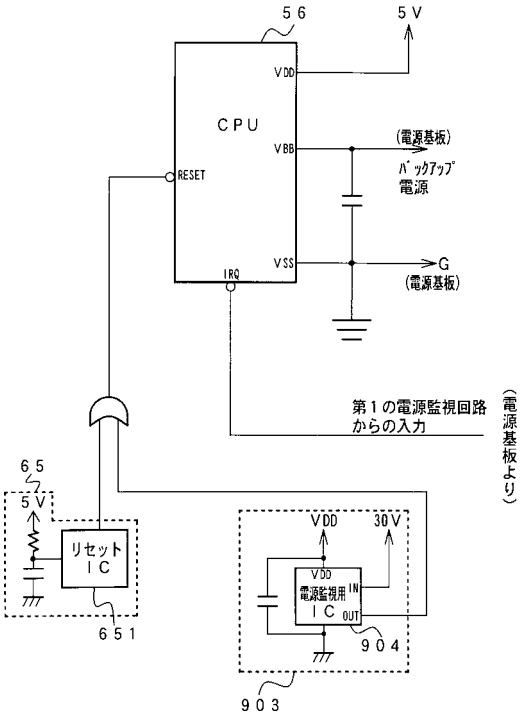
【図４】


賞球制御基板
カードユニット
賞球制御コマンド
スピーカ
音制御基板
音制御コマンド
ランプ制御基板
ランプ制御コマンド
遊技効果LED
賞球ランプ
玉切れランプ
遊技効果ランプ
発射制御基板
操作ノブ
駆動モータ
初期リセット回路
表示制御基板
ROM
RAM
CPU
I/O
基本回路
主基板
スイッチ回路
アドレスデコード回路
ソレノイド回路
ランプLED回路
情報出力回路
ゲートスイッチ
始動口スイッチ
カウントスイッチ
Vカウントスイッチ
通過ゲートスイッチ
入賞口スイッチ
玉切れ検出スイッチ
玉切れスイッチ
賞球カウントスイッチ
ソレノイド
ソレノイド
可変表示器
始動記憶表示器
装飾ランプ
確変情報
大当り情報
始動情報
賞球情報

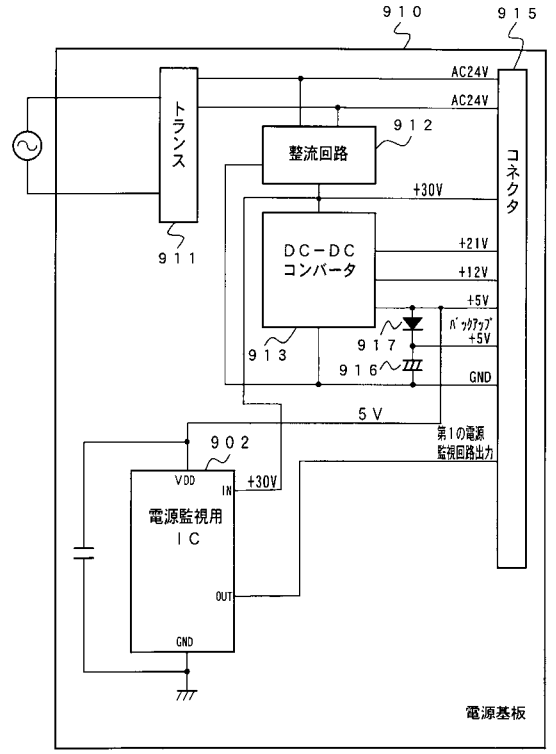
【図５】


ターミナル基板
160
ブザー
75
残高表示基板
74
カードユニット
50
返却スイッチ信号
球貸しスイッチ信号
残高表示信号
球貸し可表示信号
BRDY信号
BRQ信号
EXS信号
PRDY信号
バックアップ電源(電源基板)
賞球情報信号
球貸し個数信号
372g
372e
I/O
I/O
I/O
I/O
I/O
I/O
372f
371
CPU
VBB
374
373
372a
372b
372c
372d
ストローブ(INT)信号
68
37
主基板
578
577
56
CPU
57
31
72
71
満タンスイッチ
48
球切れ検出スイッチ
167
球切れスイッチ
187
賞球カウントスイッチ
301A
玉貸しカウントスイッチ
301B
払出モータ
289

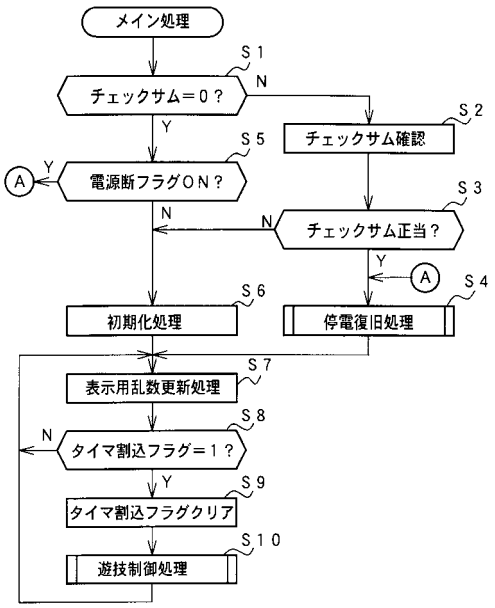
【図６】


56
5V
CPU
VDD
VBB
RESET
VSS
IRQ
(電源基板)
バックアップ電源
G
(電源基板)
第１の電源監視回路からの入力
(電源基板より)
65
5V
リセットIC
651
VDD
30V
VDD
電源監視用IC
IN
OUT
904
903

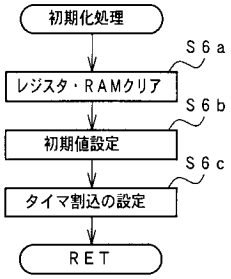
【図７】


910
915
AC24V
AC24V
トランス
911
整流回路
912
コネクタ
+30V
DC−DC コンバータ
913
+21V
+12V
+5V
バックアップ +5V
917
916
GND
5V
第1の電源監視回路出力
902
VDD
IN
+30V
電源監視用IC
OUT
GND
電源基板

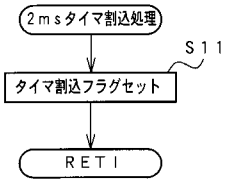
【図８】


メイン処理
S1
チェックサム＝０？
N
Y
S2
チェックサム確認
S5
電源断フラグON？
A
Y
N
S3
チェックサム正当？
N
Y
A
S4
停電復旧処理
S6
初期化処理
S7
表示用乱数更新処理
S8
タイマ割込フラグ＝１？
N
Y
S9
タイマ割込フラグクリア
S10
遊技制御処理

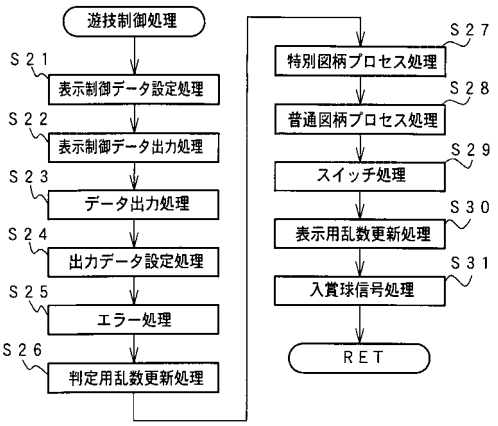
【図９】



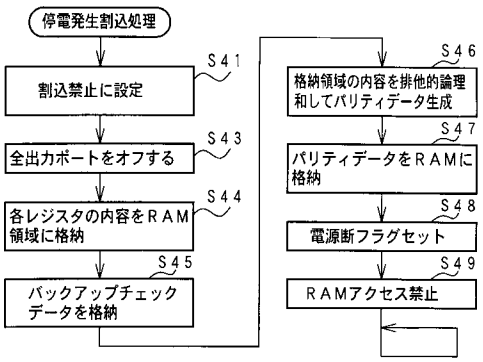
【図１０】



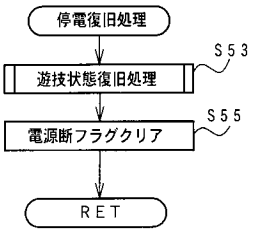
【図１１】



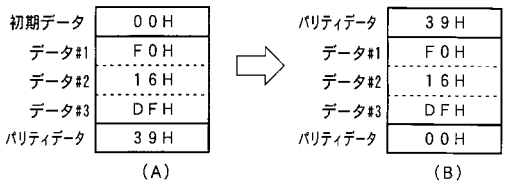
【図１２】



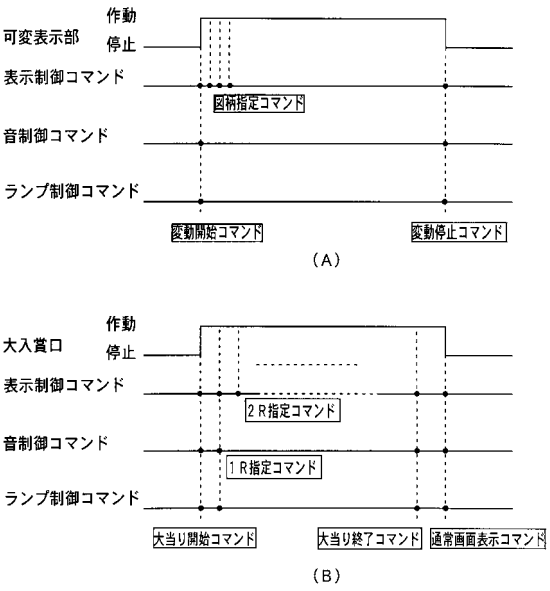
【図１３】



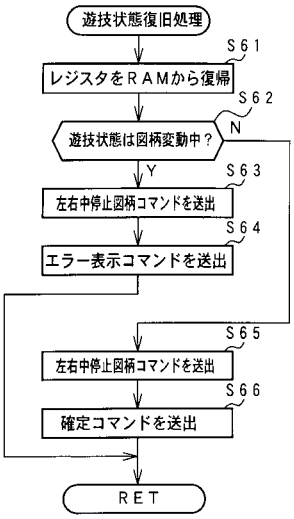
【図１４】



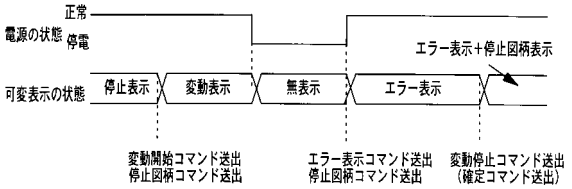
【図１５】



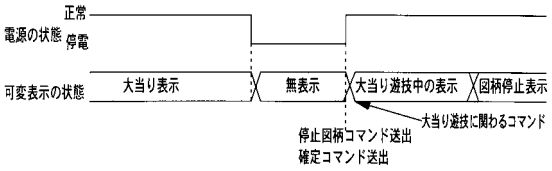
【図１６】



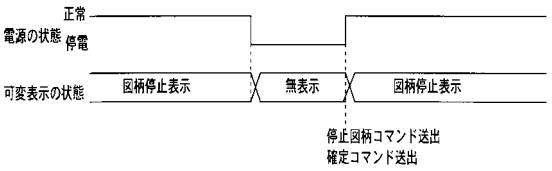
【図１７】



（Ａ）図柄変動中の停電復旧

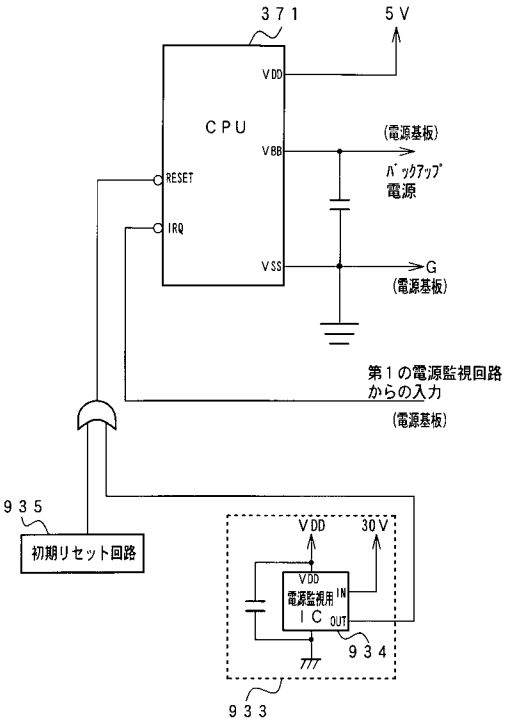


（Ｂ）大当り遊技中の停電復旧

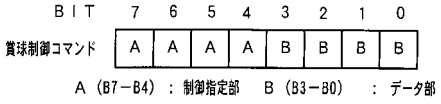


（Ｃ）遊技待ち中の停電復旧

【図１８】



【図１９】

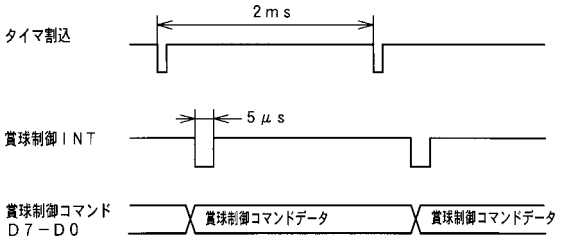


Ａ（Ｂ７－Ｂ４）：制御指定部　Ｂ（Ｂ３－Ｂ０）　：データ部

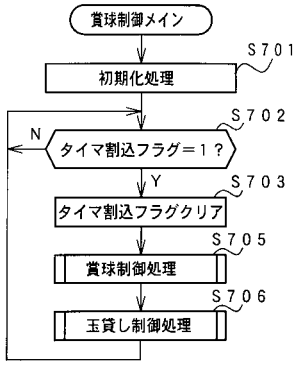
【図２０】

制御指定	ビット			
	7	6	5	4
払出個数指定	0	1	0	0
球切れ指定	1	0	0	0
発射停止指定	1	0	0	1
球切れ解除指定	1	0	1	0
発射停止解除指定	1	0	1	1

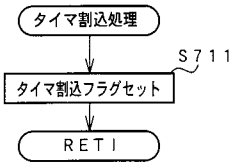
【図２１】



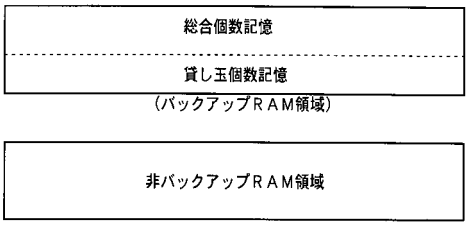
【図２２】



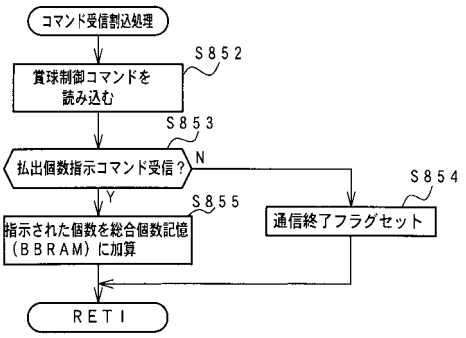
【図２３】



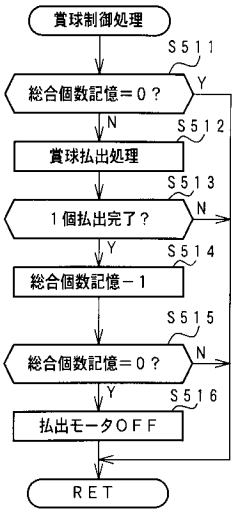
【図２４】



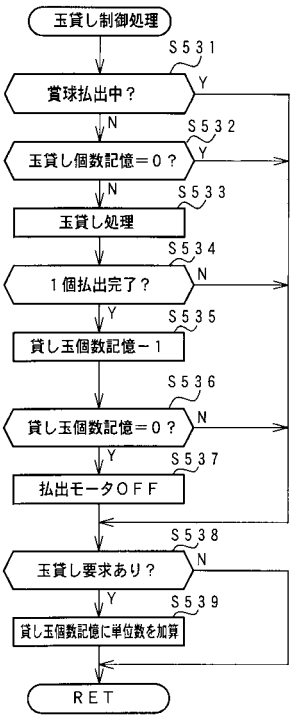
【図２５】



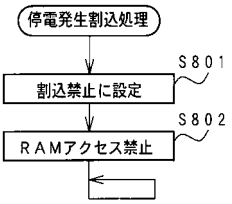
【図２６】



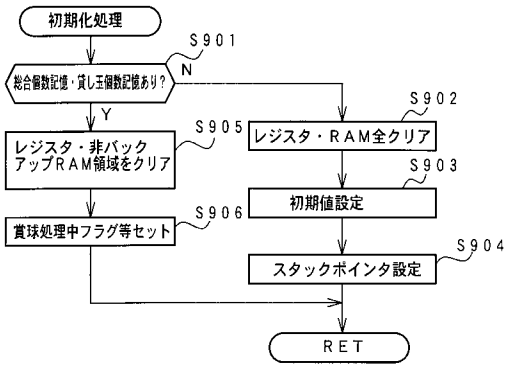
【図２７】



【図２８】


停電発生割込処理
S801
割込禁止に設定
S802
ＲＡＭアクセス禁止

【図２９】


初期化処理
S901
総合個数記憶・貸し玉個数記憶あり？
N
Y
S902
レジスタ・ＲＡＭ全クリア
S903
初期値設定
S904
スタックポインタ設定
S905
レジスタ・非バックアップＲＡＭ領域をクリア
S906
賞球処理中フラグ等セット
ＲＥＴ

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平１１－１８８１３８（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－２３４９９０（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－１１８２８１（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－０９１２９６（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－２５３３１２（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－２２９２０８（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－１９０４４６（ＪＰ，Ａ）
特開平０５－０８８７９５（ＪＰ，Ａ）
特開平０４－２０５３２５（ＪＰ，Ａ）
実開平０４－０６７７３３（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
A63F 7/02